三重県埋蔵文化財年報15

昭和59年度

1985.3

三重県教育委員会

例　　言

1. この年報は、昭和５９年度における県内の埋蔵文化財保護行政と調査の概要をまとめたものである。

2. Ⅲの緊急調査の現状のうち、２・緊急発掘調査の概要は、それぞれの発掘担当者による。

3. 本書の編集は、文化課文化財係埋蔵文化財担当においておこなった。

目　　次

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財 …… 1
1.　市町村総合計画（案）等の事前審査 …… 1
2.　民間企業等の開発計画の事前協議 …… 1
3.　国の機関等の開発計画の事前協議 …… 4

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化 …… 12
1.　埋蔵文化財整理所 …… 12
2.　文化財パトロール …… 13
3.　埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 16
4.　埋蔵文化財担当者の研修 …… 17
5.　文化財保護連絡会議 …… 18

Ⅲ　緊急調査の現状 …… 19
1.　大規模開発事業地域遺跡分布調査 …… 19
2.　緊急発掘調査 …… 21

Ⅳ　調査結果の公開 …… 51
1.　三重県埋蔵文化財展 …… 51
2.　三重県埋蔵文化財発掘調査報告会 …… 52
3.　発掘遺跡現地説明会 …… 53
4.　保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可 …… 54

〈付〉
〔1〕　埋蔵文化財関係通知 …… 58
〔2〕　三重県文化財調査員設置要綱 …… 61
〔3〕　昭和59年度三重県文化財調査員一覧表 …… 62
〔4〕　昭和59年度三重県文化財パトロール実施要項 …… 64
〔5〕　昭和59年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項 …… 67
〔6〕　埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表 …… 68
〔7〕　三重県埋蔵文化財認定通知物件 …… 71

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財

1.　市町村総合計画（案）等の事前審査

市町村総合計画及び広域市町村圏計画の策定に際して、埋蔵文化財保護に特に配慮するよう県総務部地方課に指導方を依頼している。その際留意すべき事項は、次のとおりである。

基本構想において、(1)　文化財保護の項目の有無

(2)　埋蔵文化財包蔵地一覧表等による現状把握の有無

(3)　遺跡の周知徹底の明記の有無

2.　民間企業等の開発計画の事前協議

民間企業による各種土地開発事業と埋蔵文化財の保護については、関係諸法令要項等によって方針が定められており、事前協議を実施している。特に、建設省の「宅地開発指導要綱に関する措置方針について」（計民発第54号 昭和58年8月24日）により、埋蔵文化財の発掘調査に係る調整期間、調査経費の上昇及び負担等についての実態把握と調整の円滑化の検討が提起され、文化庁でも各都道府県の実態調査を実施した。一方都市計画法施行令の一部改正に伴う施行細則の一部改正（市街化調整区域内における開発許可規模の緩和について）により、開発事業の増加が予測され、埋蔵文化財の保護に著しい影響が生じるおそれもある。

こうした現状から各種開発事業の計画段階において、埋蔵文化財の保護について十分協議することがさらに要請される。

なお、具体的取り扱いとしては、「文化財保護の指導要項」（『三重県開発事業指導に関する計画設計の技術基準』所収）により関係機関、事業者に協力を求めている。その際の現地分布調査は、当該市町村教育委員会が関係教育事務所の指導を受けて実施し、その調査結果写しを県教育委員会に報告することとしている。

〔開発行為事前設計協議（土木部）〕

種　　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　考
住宅団地造成	松阪市久保町下材町内	114,714	開 1214号 59. 9.21 ㊍59.10.12	
浜島ゴルフ場建設事業	志摩郡浜島町大字迫子字鴻ノ浦1356番地	665,954.04	開 1306号 59.10.19 ㊍59.10.26	
亀山パブリックゴルフ場増設工事	亀山市住山町字丸ケ谷大掛、白木町字管谷地内	156,500	開 1306号 59.10.19 ㊍59.11.	
住宅団地造成	津市一身田上津部田地内	153,150.33	開 1461号 59.11.20 ㊍59.12. 4	

〔開発行為に伴う設計協議（土木部）〕

種　　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　考
共同住宅、旅館、ホテル、個人別荘造成	鳥羽市安楽島町字脚掛	182,696	開 501号 59. 4.16 ㊍59. 4.24	
県総合庁舎、町庁舎、及び住宅用地造成	志摩郡阿児町鵜方字川向井	29,872.8	開 719号 59. 5.29 ㊍59. 6. 1	
住宅地造成	伊勢市勢田町字永代山741番2他	21,385.67	開 14号 59. 9. 5 ㊍59. 9.14	
ゴルフ練習場造成	桑名市大字播磨字内代1955の4他 桑名市大字西方字釜峠1306－7他4筆	45,593.2	開 1307号 59.10.15 ㊍59.10.22	
白山中央公園	一志郡白山町大字古市地内	62.976	開 1445号 59.11.14 ㊍59.11.26	
宅地開発事業	阿山郡大山田村大字甲野地内	162,662.12	開 号 59.11.22 ㊍59.11.30	
伊勢湾カントリークラブ釜生田コース	一志郡嬉野町大字釜生田地内	1,131,160	開 号 59.11.22 ㊍59.11.30	
ゴルフ打放し練習場造成	伊勢市一宇田町字大河内65番地他	15,397	開 87号 60. 1.16 ㊍60. 1.21	
車庫及び事務所造成	度会郡小俣町湯田1518番他12筆	14,124	開 178号 60. 2. 1 ㊍60. 2. 9	

種　　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　　考
住宅地造成事業	鳥羽市安楽島町字靱谷	16,013	開　179号 60. 2. 1 ㊇60. 2. 9	
宅　地　造　成	鈴鹿郡関町大字久我加太越川	63,352	開　219号 60. 2.12 ㊇60. 3. 5	
住宅及びマンション用地造成	伊勢市浦口	11,312	開　255号 60. 2.18 ㊇60. 2.25	
宅　地　造　成	上野市木興町木興山	99,100	開　381号 60. 3.12 ㊇60. 3.16	
住宅地造成	四日市市桜町字神田ケ原・字西ノ平・字奥別所・字西別所・字熊谷字高前・字姫御前平・字東別所	360,956	開　415号 60. 3.15 ㊇60. 3.23	
ゴルフ場建設	鳥羽市船津町落口地内	1,530,000		
ゴルフ場建設	桑名郡多度町古野地区内	1,280,000		
ゴルフ場建設	一志郡美杉村下多気字漆地山	1,150,000		

〔三重県土地利用対策委員会幹事会（企画調整部）〕

種　　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　　考
島ケ原カントリークラブ増設工事	阿山郡島ケ原村大字熊橋歯朶谷及び四ツ辻	495,860	土地利2号 59. 6.15 ㊇59. 6.28	
住宅団地造成	名張市神屋字西之山	166,481	㊇60. 3.28	
住宅団地造成	松阪市岡本町地内	218,342	㊇60. 3.28	
住宅団地造成	津市大字神戸字八太地内他	415,703.84	㊇60. 3.28	

3. 国の機関等の開発計画の事前協議

文化課では、前年度中あるいは年度当初に開発関係行政機関に対し、事業計画を照会するとともに、埋蔵文化財が事業地内に存在する場合はその保護について当課と十分に協議するよう申し入れをしている。

(1) 農業基盤整備事業等

農業基盤整備事業には県営圃場整備事業、県営一般農道整備事業、各種農免道路整備事業等、県が事業主体となるものと、団体営圃場整備事業、団体営農道整備事業等、市町村が事業主体となるものに分けられる。

中でも圃場整備事業は事業地が広大な面積（面）に及び、また近年は平野部の整備が終り、山間部へ浸食しているため、必然的に遺跡にかかる件数と面積は増加の傾向を示している。

今年度の県営圃場整備事業を例にとると、事業総面積６６４*ha*の中で分布調査の結果６２遺跡、面積にして７６４,４００㎡もの遺跡が所在することが確認された。

この結果にもとづき、再三にわたり耕地第二課、各耕地事務所と協議を重ね、できる限り遺跡保護に努めた結果、計５件約１９,０００㎡の遺跡については削平部分、排水路部分に限りやむをえず発掘調査を実施した。

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(*ha*)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営圃場整備事業	桑名	大安東部	35				
		大安西部	26	堀戸遺跡	員弁郡大安町石榑	17,000	試掘のち工事可
		北勢	16				
		員弁	42	戸上川東北遺跡	員弁郡員弁町	8,000	試掘・工事立合
				大泉東遺跡	〃 大泉	1,200	試掘のち工事可
				長宮遺跡	〃 長宮	22,000	試掘のち工事可
				北金井城跡	〃 北金井	18,000	地区除外
	四日市	鈴鹿第二	17				
		安塚	35	地子遺跡	鈴鹿市地子町	8,000	試掘のち工事可
		深溝	27				

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営圃場整備事業	四日市	合川・下之庄	20				
		八風	50	永井A遺跡	三重郡菰野町永井	50,000	試掘のち工事可
				〃 B 〃	〃	600	試掘のち工事可
	津	河芸南部	20				
		三雲東部	25				
		豊地	11	薬王寺遺跡	一志郡嬉野町薬王寺	3,500	試掘のち工事可
				嫁田遺跡	〃	3,000	試掘 〃
		津西部	15	薬王寺A遺跡	津市薬王寺町	1,500	試掘(1000㎡分地区除外)
				薬王寺B遺跡	津市薬王寺町	2,000	試掘のち工事可
		安濃川右岸	10	草生A遺跡	安芸郡安濃町草生	1,500	〃
				〃 B 〃	〃	1,000	〃
				〃 C 〃	〃	3,000	〃
				〃 D 〃	〃	1,500	〃
		美里中南部	22	下の郷A遺跡	安芸郡美里村五百野下の郷	18,000	試掘のち保存(盛土)(排水工事立会)
				〃 B 〃	〃	10,000	試掘
				舞谷遺跡	〃 舞谷	15,000	昭和60年度事業へ
				筒井遺跡	〃 筒井	3,600	試掘のち工事可
				井面遺跡	〃 井面	3,500	〃
		白山西部	20	山田野A遺跡	一志郡白山町山田野	4,500	〃
				〃 B 〃	〃	3,500	〃
				〃 C 〃	〃	20,000	試掘のち保存(盛土)
		白山	15	古市A遺跡	一志郡白山町古市	4,500	試掘
				〃 B 〃	〃	2,500	〃 排水路部(2000㎡)のみ本調査、他は保存
				〃 C 〃	〃	3,600	〃
				〃 D 〃	〃	35,000	〃
				〃 E 〃	〃	40,000	〃
		白山西部		両構A遺跡	一志郡白山町八対野	17,000	試掘のち工事可
				〃 B 〃	〃	11,000	試掘のち保存(盛土)
				〃 C 〃	〃	6,000	試掘のち工事可
				〃 D 〃	〃	12,000	〃

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営圃場整備事業	津	津南部	20	磯古遺跡	津市雲出本郷町	1,400	試掘のち工事可
				高峰遺跡	〃 伊倉津町	20,000	昭和60年度事業へ
	松阪	上御糸	6				
		斎宮	30	金剛坂遺跡	多気郡明和町金剛坂	100,000	試掘のち保存・本調査分(5,050㎡)
		東黒部	30	田の上遺跡	松阪市乙部町	18,000	試掘のち保存(排水のみ工事立会)
		明星	12	明宝苑東方遺跡	多気郡明和町明星	6,000	試掘のみ工事可
		堀坂川沿岸	30	曲A遺跡	松阪市曲町	36,000	試掘のち保存・本調査(2,700㎡)
				〃 B 〃	〃	8,000	試掘のち保存・本調査(600㎡)
	伊勢	伊勢南部	30	日向遺跡	伊勢市上野町	3,000	試掘のち工事可
	上野	大山田第二	20	平松A遺跡	阿山郡大山田村平松	12,000	試掘・本調査(800㎡)
				〃 B 〃	〃	7,000	試掘のち工事可
				〃 C 〃	〃	6,500	〃
				猿野A遺跡	〃 猿野	2,100	〃
				〃 B 〃	〃 〃	2,500	〃
		河合	16	千貝A遺跡	阿山郡阿山町千貝	12,000	〃
				〃 B 〃	〃	25,000	〃
		赤目	13	観音寺遺跡	名張市中村	15,000	試掘のち本調査(6,000㎡)
				観音寺A古墳	〃	500	試掘のち工事可
				〃 B 〃	〃	500	地区除外
				中村遺跡	名張市中村	7,000	試掘のち工事可
				浦遺跡	〃 字浦	10,000	試掘のち保存(1,500㎡について61年度調査)
		上野東部	33	高山古墳	上野市高山	400	地区除外
				高山A遺跡	〃	60,000	試掘 } 本調査(2000㎡)
				〃 B 〃	〃	8,000	〃 } 本調査(2000㎡)
				〃 C 〃	〃	6,000	〃 } 本調査(2000㎡)
				大狭間A遺跡	上野市中友生	2,000	試掘のち工事可
				〃 B 〃	〃	7,000	〃
				上友生遺跡	上野市上友生	15,000	〃
	熊野	相野谷	18				

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(m²)	措置
			664	60件		742,400	
昭和59年度から新規地区	桑名	藤原東部					
	津	久居					
	〃	中郷		北垣外遺跡	一志郡嬉野町森本	20,000	昭和60年事業へ
	〃	芸濃南部					
	伊勢	村松		村松遺跡	伊勢市村松町	2,000	試掘のち工事可
			総件数	62件	遺跡総面積	764,400	
県営広域営農団地基幹農道整備事業	四日市耕地事務所	北勢二期		永井遺跡	三重郡菰野町永井	1,000	試掘のち工事可
		北勢南部		深井沢A・B遺跡	鈴鹿市深溝町	3,000	〃
		〃		和無田遺跡	四日市市和無田町	2,500	本年度用買のみ
	津耕地事務所	中勢地区		岩原A・B遺跡	安芸郡芸濃町岩原	1,600	試掘のち工事可
		〃		相野遺跡	〃 安濃町草生	2,500	〃
		中勢二期		並松遺跡	久居市榊原町	1,200	〃
		〃		浜城跡	一志郡白山町浜城	1,000	地区除外
県営揮発油税財源身替農道整備事業	上野耕地事務所	大山田南部二期		前山古墳	阿山郡大山田村富岡	500	本調査

(2) 道路改良、河川改修等

道路改良、河川改修はその性格上、埋蔵文化財の保存を図ることが難しいが分布調査、試掘調査の結果に基づき最少限の範囲について事前に発掘調査を実施している。しかし路線決定、用地買収等の事情により工事着手時が未定のものが多く、ほとんどが協議中となっている。

本年度県教育委員会が実施した発掘調査は道路関係１１件、河川関係１件である。

事業名	遺跡名	所在地	面積	措置
国道３０６号線	丹生川上城跡	員弁郡大安町丹生川	4,500㎡	本調査
県道徳居国府線	段郷田遺跡	鈴鹿市長法寺町	45	試掘
国道３０６号線	三行城跡	安芸郡河芸町三行	1,500	本調査
〃	稲降遺跡	〃	8	試掘
県道家所阿漕（Ｔ）線	家所城北遺跡	安芸郡美里村家所	40	〃
県道藤大三（Ｔ）線	古市遺跡	一志郡白山町古市	40	〃
県道丹生寺一志線	片野遺跡	一志郡一志町片野	4,450	本調査
〃	園遺跡	松阪市丹生寺町園	88	試掘
県道仁田相可口線	ミゾコ遺跡	多気郡多気町四神田	1,600	本調査
県道田丸斎明線	砂谷遺跡	度会郡玉城町日向	45	試掘
県道甲南上野線	遊免遺跡	阿山郡阿山町槙山	70	〃
木津川改修（矢田川工区）	竹ノ下遺跡	上野市森寺	1,350	本調査

土木部関係協議中遺跡（昭和５９年度）

《道路建設課》

事務所	課	事業名	文化財の名称	所在地	面積（㎡）	概要	備考
桑名	建1	３６５号線改良	大久保城跡	員弁郡大安町片樋		中世城館	土塁残存、年報記載
四日市	建2	３６５号線	門ノ上古墳	四日市市小牧町		円墳	〃
〃	〃	〃	真造寺遺跡	〃		包蔵地（弥生）	〃
〃	〃	〃	高岡山古墳	四日市市上海老町		円墳	〃

事務所	課	事業名	文化財の名称	所在地	面積	概要	備考
四日市		国道306号	コナラ・クヌギ	四日市々水沢茶屋町			
鈴鹿	建1	306号線改良	小下道跡	亀山市小下町	3,600	包蔵地(縄文～)	年報記載 No.85～91
〃	〃	〃	東樺野古墳	〃 樺野町	150	円墳	〃 No.71
〃	〃	〃	東樺野遺跡	〃 〃	2,500	包蔵地	〃 No.69～71
〃	〃	〃	(仮)下之庄A遺跡	〃 下之庄	2,700	包蔵地(平～鎌)	新発見 No.0～3
〃	〃	〃	(仮)下之庄B遺跡	〃 〃	1,300	〃(〃)	〃 No.7～9
伊勢	建1	167号線	浜畑遺跡	度会郡二見町江	2,500	〃(〃)	〃 2ケ所
〃	建2	260号線改良	田曽城跡	度会郡南勢町田曽浦	2,100	中世城館	道建希望ランク1 60.4 試掘 年報記載 60.6～本調査
志摩	〃	〃	畑野山遺跡	志摩郡志摩町布施田字畑野山	2,400	包蔵地(中近世)	〃 3 60.5 試掘 新発見 No.1865～191
上野	建1	368号線改良	四国山城跡	上野市山出	3,200	中世城館	〃 4 道建8.20，58.8.8付調査依頼済 年報記載 No.151～159
〃	建3	〃	四ノ切城跡	名張市蔵持町	10,000	〃	道建5.30，58.6.8付 調査依頼済 年報記載 No.23.5～40
四日市	建1	四日市土山線改良	宮ノ前遺跡	四日市々北角町	5,600	包蔵地(鎌)	年報記載
		県道上海老南角線	タブノキ・ヒサカキ・クロガネモチ	四日市々赤水・上海老町			
		県道川島・貝塚線	コナラ・タブノキ				
鈴鹿	建2	上野鈴鹿線	(仮)秋永A遺跡	鈴鹿市秋永町	2,700	包蔵地(平～鎌)	57条3提出済 60.試掘(?) 新発見 No.29～36
〃	〃	〃	(仮)秋永B遺跡	〃	2,200	〃(〃)	57条3提出済 〃 新発見 No.46～52
〃	〃	三行庄野線特改	(仮)御園遺跡	〃 御園町	2,000	〃(〃)	57条3提出済 〃 新発見 No.46～52
津	建1	津芸濃大山田線改良	椋本南方遺跡	安芸郡芸濃町椋本		〃(鎌～室)	新発見
〃	建2	津関線改良	(仮)大古曽遺跡	津市一身田大古曽	1,300	〃(鎌)	新発見 No.75～79
〃	建1	穴倉南神山津線特改	南神山7号墳	安芸郡安濃町南神山	100	円(石室)	61調査希望 新発見 No.62～63
〃	〃	家所阿漕(T)線特改	(仮)神戸遺跡	津市神戸	3,400	包蔵地(古～)	新発見 No.81.5～96
〃	〃	〃	家所北遺跡	安芸郡美里村辰ノ口		〃(中世)	一部試掘済 59.10.3 要立合い 年報記載 No.31～32
津久居	〃	片田井戸久居線(防衛道路)	田中古墳群	津市片田田中町	300	円墳	3基 新発見 No.50.5～52.5
久居	建2	一志出家線	高寺遺跡	一志郡一志町高野	2,300	包蔵地(弥生～)	300m延長 新発見 No.32～39.5
〃	建1	白山小津線	道標	一志郡一志町下ノ世古		道標1基	新発見
〃	建2	一志美杉線	(仮)波瀬A遺跡	一志郡一志町波瀬	2,400	包蔵地(鎌～室)	新発見 No.3.5～16
〃	〃	〃	(仮)波瀬B遺跡	〃	1,200	〃(〃)	61調査希望 新発見 No.29.5～36
〃	〃	〃	(仮)井ノ口遺跡	一志郡一志町波瀬字井ノ口	1,200	〃(〃)	新発見 No.0～7
〃	〃	松阪久居線	平生南遺跡	一志郡嬉野町平生	2,500	〃(〃)	60試掘希望 新発見 No.54～66
〃	〃	〃	堀田遺跡	一志郡嬉野町宮古	4,400	〃(〃)	60試掘希望 新発見 No.32～47.5
〃	〃	嬉野飯高線	下之庄東方遺跡	一志郡嬉野町下之庄	15,000	〃(弥・古)	1260m延長 近目工事用道路 新発見 No.6～69.5

事務所	課	事業名	文化財の名称	所在地	面積	概要	備考
久居	建1	丹生寺一志線特改	(仮)平生遺跡	一志郡嬉野町平生	1,400	包蔵地(弥・古)	新発見 No.88～94.5
松阪	〃	〃 改良	鍛冶屋垣内遺跡	松阪市伊勢寺町	17,300	〃(鎌・室)	近自工事用道路要再踏査 年報記載 No.133～190.5
〃	〃	〃 〃	五輪山古墳群	松阪市岡山町		円墳	〃 年報記載 No.109.5～118
〃	〃	〃 特改	園遺跡	松阪市丹生寺町園	1,300	包蔵地(鎌・室)	一部試掘済 60試掘希望 年報記載 No.23～32
〃	建2	御麻生薗豊原線改良	(仮)豊原遺跡	松阪市豊原町	6,700	〃(平・鎌)	新発見 No.0～28
〃	建1	松阪第2環状線	(仮)山室A遺跡	松阪市山室町		〃(鎌・室)	中核工業団地のからみで早くなる可能性あり 新発見 No.113～118
〃	〃	〃	(仮)山室B遺跡	〃		〃(〃)	〃 新発見 No.125～127.5
〃	〃	〃	(仮)上蛸路A遺跡	松阪市上蛸路町		〃(〃)	〃 新発見 No.201～204
〃	〃	〃	(仮)上蛸路B遺跡	〃		〃(〃)	〃 新発見 No.207.5～210
〃	〃	〃	(仮)桂瀬遺跡	松阪市桂瀬町		〃(〃)	〃 新発見 No.86.5～100
〃	〃	合ケ野松阪線改良	伊勢寺遺跡	松阪市伊勢寺町		〃(〃)	アクセス道路試掘済 年報記載
〃	〃	〃	2地点(仮)	松阪市深長町		包蔵地	〃 〃
〃	〃	〃	3地点(仮)	〃		〃	〃 〃
〃	〃	〃	4地点(仮)	松阪市野村町		〃	〃 〃
〃	〃	〃	5地点(仮)	〃		〃	〃 〃
〃	〃	〃	6地点(仮)	松阪市曲町		〃	〃
〃	建2	伊勢魚見松阪線特改	西浦遺跡	多気郡明和町西行部	2,400	包蔵地(鎌・室)	新発見 No.13.5～23.5
〃	〃	大淀港斎明線	早登遺跡	多気郡明和町		〃	60試掘希望 No.3～28
伊勢	〃	度会玉城線特改	(仮)勝田遺跡	度会郡玉城町勝田	4,000	包蔵地＋古墳	新発見 No.0～10
〃	〃	田丸(T)斎明線特改	砂谷遺跡	度会郡玉城町日向	1,150	〃(奈良)	道建希望ランク5 No.34～36 試掘済 年報記載 No.41～44
志摩	〃	安乗港線特改	国府城跡	志摩郡阿児町国府		中世城館	年報記載
〃	〃	〃	御茶子遺跡	〃		包蔵地(鎌・室)	年報記載
〃	〃	的矢大王線特改	(仮)東海道遺跡	志摩郡阿児町国府東海道	2,500	包蔵地(鎌・室)	新発見
上野	〃	甲南上野線特改	桶先城跡	阿山郡阿山町円徳院	3,750	中世城館	道建希望ランク2 年報記載 No.61～76

《河　川　課》

事務所	課	事業名	文化財の名称	所在地	面積	概要	備考
津	河川	天神川	已ノ谷遺跡	津市高茶屋	400	包蔵地（中世）	
久居		碧川	南曽原遺跡	一志郡三雲村南曽原	1,200	〃（弥・中世）	
上野		木津川	下郡遺跡	上野市下郡	1,500	〃（中世）	

《砂　防　課》

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積 ㎡	概要	備考
新沢川	多度町柚井	宇賀神社古墳群		3　基	事業地に隣接設計変更なら連絡

《都市計画課》

事務所	課	事業名	文化財の名称	所在地	面積	概要	備考
四日市	都市計画課	北勢中央公園		四日市々西村町地内			
〃		環状1号線	ウメ・アラカシ・クロバイ・クスノキ・カクレミノ	四日市々室山			
津		県道豊里久居線	峰治城跡	津市一身田上津部田	4,800	中世城館	
〃		〃	小舟古墳	津市上浜町6丁目		円墳	
松阪		県道合ケ野松阪線	川井町遺跡	松阪市川井町	13,000	包蔵地（弥生）	近自、アクセス関連
〃		県道松阪駅下徳田線	大黒田遺跡（仮）	松阪市大黒田町	4,600	〃（鎌）	

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化

1.　埋蔵文化財整理所

津市及び上野市内に埋蔵文化財整理所があり、出土遺物の収蔵、発掘調査記録類の保管、整理作業及び報告書作成などにあたっている。上野整理所は伊賀地区における国・県等が実施する土木工事に伴う発掘調査を実施するとともに、市町村教育委員会が実施する発掘調査の指導にあたっている。

○埋蔵文化財上野整理所

所在地　　上野市丸之内１１７

（電）　０５９５－２４－００７９

なお、本年度より近畿自動車道・国道１号線バイパス建設に伴う発掘調査基地を設け、出土遺物の収蔵、発掘調査記録類の保管にあたっている。

○近畿自動車道松阪整理所

所在地　　松阪市丹生寺町

（電）　０５９８－５８－０２８３

○国道１号亀山バイパス亀山整理所

所在地　　亀山市和田町字西野１２７８－９

（電）　０５９５８－２－２５８１

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
4		大山田村北切Ｃ遺跡の工場用地造成に係る協議
5	県圃　上野市東部地区高山遺跡発掘調査（７月まで）	
6	県河川改修　上野市竹ノ下遺跡発掘調査 県圃　名張市赤目地区観音寺遺跡発掘調査（10月まで）	大山田村北切Ｃ遺跡発掘調査（８月まで）
7		伊賀地区文化財保護連絡会議
8		阿山町田矢伊予守城跡保護協議

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
9	農免道路　大山田村南部地区前山古墳発掘調査 （１２月まで）	青山町桐ケ谷古墳、塚原２号墳保護協議
10	県圃　大山田村第二地区試掘調査	伊賀町福地城跡保存協議
11	県圃　上野市東部地区試掘調査 県圃　阿山町川合地区試掘調査 県圃　名張市赤目地区試掘調査	
12	県道改良事業関係　伊賀地区分布調査	
1		
2	農免道路　阿山町上友田地区保護協議	
3		青山町岡田１号墳保護協議

2. 文化財パトロール

昭和５９年度の文化財パトロールは、小中高の教員及び民間有識者５０名を三重県文化財調査員として委嘱し、実施した。

(1) 開発計画と文化財パトロール

総パトロール件数1,１２６件で、内埋蔵文化財関係は９９２件である。通常の文化財確認調査に加えて県の開発事業にかかる埋蔵文化財の分布調査を依頼しており、今後とも公共事業地内のパトロールを強化していく予定である。

民間開発事業については、市町村が独自に予定地内の分布調査を実施しており、埋文担当者のいない市町村でも保護措置書の提出がふえている。

(2) 文化財の実態確認

文化財パトロールによる新発見遺跡は２１件あった。これらについては、すでに遺跡カードへの記入がなされているものもあるが、未整理のものについては、早急に台帳等へ記入し、整備したい。

指定文化財に対する巡視件数は１３４件あり、その半数は天然記念物関係である。天然記念物については、周囲の環境の変化、記念物への影響が強く

意識されていない開発等による樹木の衰退があり、今後この点での保全に努力をする必要がある。

（昭和５９年度文化財パトロール実施件数）

種類／月	建造物 美工等	史跡	名勝	天然 記念物	埋蔵 文化財	計
4	0	0	0	0	0	0
5	2	0	0	9	12	23
6	0	0	0	0	7	7
7	1	2	0	6	51	60
8	27	2	1	22	152	204
9	1	1	0	3	91	96
10	2	0	0	6	77	85
11	0	1	0	2	48	51
12	1	0	0	5	69	75
1	5	2	0	6	159	172
2	6	5	1	10	172	194
3	1	0	0	4	154	159
計	46	13	2	73	992	1,126

（四日市市文化財パトロール調査員）

調査員	所属	住所
加田勝敏		
葛山博次	朝明高校	
桐生定已	常磐中学校	
片岡雅章	桑名高等学校	
森下明	常磐小学校	
樋尾重雄		
早川裕己	大谷台小学校	
加藤淳次	大池中学校	

地区	分担地区	対象	調査員
A地区	保々、下野、八郷、大矢知、富洲原、富田		片岡・森下
B地区	県、三重、神前、羽津、海蔵、橋北、旧市		早川
C地区	桜、川島、神前、常磐、日永	一般文化財	加藤
D地区	水沢、小山田、内部、河原田、四郷、塩浜		樋尾・加藤
A～D地区	全地域	天然記念物	加田・葛山・桐生

（註 「四日市市文化財パトロール要項」は、『三重県埋蔵文化財年報7』昭和51年度版 1977.3を参照）

（津市埋蔵文化財パトロール調査員）

調査員	所属	住所
河合良成	南郊中学校	
西口嘉雄		
浅生悦生	西郊中学校	
和田勉	橋南中学校	
高木洋幸	新町小学校	
松浦栄	白塚小学校	
三重大学歴史研究会原始古代史部会		
津高地歴クラブ	（顧問 福江克明）	
津西高地歴クラブ	（〃 栗本俊雄）	
〃 郷土史クラブ	（〃 徳井賢）	
高田高郷土史クラブ	（〃 長谷川博）	

3. 埋蔵文化財発掘技術者研修

埋蔵文化財の調査に関する専門的知識と技術の向上を目的とした研修事業は、昭和４２年度以来、学校職員を対象として夏期に県外の研究機関に派遣して実施してきた。しかし、短期間の研修では不十分であるため、昭和５４年度からは研修事業を強化拡大し、県外３ケ月、県内９ケ月の１カ年研修を実施している。

昭和５９年度研修生

服　部　久　士　（県立白山高等学校教諭）
宮　田　勝　功　（名張市立北中学校教諭）
河　北　秀　実　（大内山村立大内山中学校教諭）
浅　尾　　悟　（亀山市立亀山中学校教諭）

（昭和５９年度研修内容）

月	県内研修	県外研修
4	○文化財保護行政について　○分布調査実習 ○遺物実測実習　○遺跡見学	
5	○発掘調査実習　（斎宮跡 丹生川上城跡）	
6	○　〃　（斎宮跡・丹生川上城跡）	
7	○　〃　（斎宮跡・金剛坂遺跡）	平城宮跡発掘調査部
8	○　〃　（斎宮跡・片野遺跡・丹生川上城跡）	平城宮跡発掘調査部
9		平城宮跡発掘調査部 飛鳥藤原宮跡発掘調査部
10	○発掘調査実習　（曲遺跡・正法寺山荘跡・観音寺遺跡）	飛鳥藤原宮跡発掘調査部
11	○　〃　（曲遺跡）	飛鳥藤原宮跡発掘調査部
12	○　〃　（曲遺跡・隠岡遺跡）	
1	○報告書作成実習	
2	○報告書作成実習 ○室内講義	
3	○報告書作成実習　○資料館・博物館見学 ○室内講義　○発掘調査実習（金剛坂遺跡）	

（室内講義内容）

月　日	内　　容	担　　当	場　　所
4.10	○埋蔵文化財について ○考古学入門	主査　伊藤　久嗣 技師　新田　　洋	津埋蔵文化財整理所
4.12	○発掘調査の進め方 ○測量入門	技師　吉水　康夫	〃
4.14	○土器実測の仕方 ○拓本の取り方	技師　山田　　猛 主事　高見　宜雄	〃
4.13	○整理作業の進め方	主事　田中喜久雄	〃
2.27	○測量の方法 ○斎宮の土器他	主査　山沢　義貴 主査　谷本　鋭次 主事　倉田　直純	斎宮跡調査事務所
2.28	○縄文土器について	主事　高見　宜雄	津埋蔵文化財整理所
3.1	○弥生土器について	主査　伊藤　久嗣	〃
3.7	○古墳時代の土器	技師　吉水　康夫	〃
3.25	○中世城館	主事　駒田　利治	〃
3.26	○寺院と瓦	技師　山田　　猛	亀山バイパス調査事務所
3.30	○中世の土器	技師　新田　　洋	津埋蔵文化財整理所

4. 埋蔵文化財担当者の研修

県及び市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者に対する研修会を、隔月に開催地を順次交替して開催している。

この研修会は県文化課、県斎宮跡調査事務所、市町、文化課研修生の全員参加を原則としており、埋蔵文化財における行政上の諸問題、調査方法、調査結果等について情報交換及び討議を行なった。また、重要遺跡の見学とともに、文化財関係ほかの講演を聴講した。

	開　催　日	開　催　地	参加数	講演・見学など
第1回	59.4.17	津総合庁舎	42	
第2回	59.6.15	サンライフ松阪		「調査における労働安全性について」 草山遺跡見学
第3回	59.8.3	菰野社会福祉センター	25	県埋文展・丹生川上城跡見学
第4回	59.9.28	津敬和公民館	34	平田古墳群・釜生田瓦窯・片野遺跡見学
第5回	59.12.14	名張市公民館		「名張市藤堂邸の建築について」 沢代遺跡・浦遺跡見学
第6回	60.2.22	鳥羽市市民文化会館		「海の民具について」 海の博物館見学

5. 文化財保護連絡会議

(1) 趣　　旨

本県内において行われる住宅造成、農業基盤整備、道路建設等の開発事業にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、昭和５５年９月１９日付教文第５２０号で三重県教育委員会教育長が各市町村教育委員会教育長に通知したところであるが、開発事業に関する連絡を密にし、事前協議等における文化財の確認、事務を円滑に行い、文化財保護の一助とする。

(2) 開 催 日

教育事務所	開　催　日　時	場　　所
北　　勢	7月　5日　9：30～11：30	県四日市庁舎4階第7会議室
中　　勢	6月26日　〃	県津庁舎4階第5会議室
松　　阪	6月29日　〃	県松阪庁舎4階第4会議室
南勢志摩	6月22日　〃	県伊勢庁舎3階中会議室
上　　野	7月　2日　〃	建設業協会2階第7会議室（県上野庁舎北側）
尾鷲・熊野	6月29日　〃	県熊野庁舎第9会議室

(3) 協議内容

1) 文化財保護の概要

2) 開発にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて

3) 各種開発事業計画と埋蔵文化財

・県、市町村の開発事業計画を中心として

4) そ の 他

(4) 出 席 者

県民局、農業事務所、耕地事務所、林業事務所、土木事務所、教育事務所、各市町村開発関係課

Ⅲ　緊急調査の現状

1.　西員弁地域遺跡詳細分布調査

(1)　調査の目的

員弁地域においては数多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されており、出土遺物についても郷土史研究家により収集されてきた。

また、遺跡の範囲等は昭和４４年度の三重用水農業水利事業地域分布調査、あるいは文化財パトロール等を通じて遺跡地図上に示されてきたが、全域を網羅するには至っていない。

同地域では近年工場の進出、宅地造成等諸開発が活発化しており、これら開発から埋蔵文化財を保護するうえからも詳細な遺跡地図を作成する必要が生じている。そこで、員弁郡西部の藤原、北勢、大安の３町について５９、６０年度の２か年にわたり全域の分布調査を実施し、埋蔵文化財保護の基礎資料とする。

(2)　調査組織

1）調査主体　　三重県教育委員会文化課

2）調査担当者　　三重県文化財調査員ほか（別紙）

3）調査協力　　北勢教育事務所

藤原町、北勢町、大安町教育委員会

三重大学歴史研究会

(3)　調査期間

昭和５９年４月～昭和６１年３月

(4)　調査の方法

員弁郡藤原町、北勢町、大安町全域の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施し遺跡台帳に記入するとともに遺跡の範囲を都市計画図に明記し、詳細な遺跡分

布地図を作成する。

(5) 調査結果

1) 遺跡台帳の作成と整備

2) 遺跡地図及び地名表の作成

〈調　査　員〉

氏　　名	住　　所　（所　属）	電　　話
◎田中欣治		
松本　覚		
並河　豊		
藤井樹己		
辻　直樹		
内田　剛		
岩脇　彰		

◎　主任調査員

調査協力

三重大学歴史研究会原始古代史部会

2. 緊急発掘調査

本年度は県教育委員会が主体となって実施したものは２３件、市町村教育委員会が主体のもの３３件、遺跡調査会が主体のもの８件で総６４件の発掘調査があった。今年度も圧倒的に公共事業によるものが多く、近年の開発事業が次第に山間部に移向していくにつれて、縄文時代の遺跡・遺物の検出が増加する傾向が認められる。なお、調査体制、出土品の収蔵・保管などについては多くの問題を抱えており、抜本的な改善策の検討を要する。

（※国・県費補助事業）

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
丹生川上城跡	員弁郡大安町丹生川上	一般国道306号道路改良事業	県教委	県（土木部）
大井田城跡	員弁郡大安町大字大井田字幸次郎ケ谷	宅地造成	町教委	事業者
赤堀城跡	四日市市城東町	都市計画道路改良工事	市教委	市
西ノ山古墳	四日市市山城町字西ノ山	道路改良	市調査会	市
山城遺跡	亀山市川合町山城	国道1号バイパス	県教委	建設省
谷山古墳	亀山市井田川町谷山	国道1号バイパス	県教委	建設省
日原遺跡	亀山市布気町字日原	ホテル建設（ロッジ）	市教委	事業者
山ノ花遺跡	鈴鹿市上田町字飛鳥塚	三角点標式建設	市教委	事業者
岸岡山２１号墳	鈴鹿市岸岡町字北山城	三角点標式建設	市教委	事業者
蛇谷古墳群他	鈴鹿市御薗町徳田町地内	工業団地造成	市調査会	市
渋見城跡	津市渋見町字丸岡小谷	都市計画道路	市教委	市
鎌切古墳群	津市大字野田字鎌切	住宅団地造成	市教委	事業者
三行城跡	安芸郡河芸町三行字住持	道路改良事業	県教委	県（土木部）
平田古墳群	安芸郡安濃町大字妙法寺	住宅団地造成	町調査会	事業者
牧遺跡	久居市牧町	宅地造成	市教委	事業者
片野遺跡	一志郡一志町片野	道路建設	県教委	県（土木部）
片野遺跡	一志郡一志町片野字内山	町道建設	町教委	町
下名倉遺跡	一志郡一志町大字井関	団体営圃場整備	町教委	町
古市遺跡	一志郡白山町古市	県営圃場整備	県教委	県（農林水産部）※

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
釜生田辻垣内瓦窯	一志郡嬉野町大字釜生田字辻垣内	自然崩壊	町教委	町 ※
夜堀遺跡	一志郡嬉野町大字下之庄字川原外	河川改修	建設省三重工事事務所	建設省
草山遺跡	松阪市久保町字草山	団地造成	市教委	事業者
草山遺跡	松阪市下村町字草山	宅地開発	市教委	市 ※
山添2号墳	松阪市山添町上山	防災のための土取り	市教委	市
曲A・B遺跡	松阪市曲町出口	県営圃場整備	県教委	県（農林水産部）※
下山見B遺跡	松阪市小阿坂町	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
新田遺跡	松阪市小阿坂町	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
榎長遺跡	松阪市伊勢寺町	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
森下池西方遺跡	松阪市御麻生園町	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
大原堀南方遺跡	松阪市御麻生園町	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
岸本遺跡	飯南郡飯高町深野字岸本	県営畜産経営環境整備事業	県教委	県（農林水産部）
ミゾコ遺跡	多気郡多気町四神田字ミゾコ	県道改良工事	県教委	県（土木部）
山崎遺跡	多気郡多気町字牧	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
浅間山北遺跡	多気郡多気町字牧	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
金剛坂遺跡	多気郡明和町金剛坂	県営圃場整備	県教委	県（農林水産部）※
北野遺跡	多気郡明和町大字斎宮字大頭	宅地造成	町教委	事業者
発シA遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ	用水路改修	町教委	事業者
発シC遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ	用水路改修	町教委	事業者
赤坂遺跡	多気郡明和町大淀地内	県道バイパス	町教委	県（土木部）
下村A遺跡	多気郡勢和村字下村	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
下村B遺跡	多気郡勢和村字下村	近畿自動車道建設	県教委	日本道路公団
隠岡遺跡	伊勢市倭町字隠岡	市営住宅建設宅地造成	市教委	市
東遺跡	伊勢市西豊浜町字東	店舗用地造成	市教委	事業者
元新田遺跡	伊勢市津村町白木字元新田	宅地造成	市教委	事業者
明豆遺跡 上地山古墳	度会郡玉城町宮古上地山	団体営圃場整備	町教委	町 ※
ヒロサキ遺跡	度会郡南勢町船越字花川	町誌編纂	町教委	町

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
宮山古墳	度会郡南勢町礫浦	町誌編纂	町教委	町
新田古墳群	鳥羽市答志島	学校建設	市教委	市
大井浜遺跡	志摩郡大王町名田字大井田	海水浸蝕	町教委	町
城山城町	志摩郡磯部町迫間字長岡	地区改良事業	町教委	町
高山遺跡	上野市蓮池青ノ代	県営圃場整備	県教委	県（農林水産部）※
竹ノ下遺跡	上野市森寺字竹ノ下	河川改修	県教委	県（土木部）
谷A遺跡	上野市上郡字谷	団体営圃場整備	市教委	市
谷B遺跡	上野市上郡字谷	団体営圃場整備	市教委	市
井手遺跡	名張市井手字森之本	農業基盤整備	市教委	市 ※
観音寺遺跡	名張市中村字観音寺	県営圃場整備	県教委	県（農林水産部）※
沢ノ代遺跡	名張市赤目町丈六	県道改良	市調査会	県（土木部）
小谷古墳群	名張市蔵持町芝出小谷	都市計画道路	市調査会	市
夏見廃寺跡	名張市夏見	範囲確認	市教委	市 ※
黒田古窯跡	名張市桔梗ケ丘南	国道改築	市調査会	水資源開発公団
文間谷遺跡	名張市蔵持町原出字丈間谷	団体営圃場整備	市調査会	市
西A遺跡	名張市瀬戸口字西	河川改修	市教委	建設省
中村4号墳	名張市中村字高尾	宅地造成	市調査会	事業者
北切C遺跡	阿山郡大山田村大字富永字北切	工業用地造成	村教委	村 ※
前山古墳	阿山郡大山田村大字富永字前山	農道取付	県教委	県（農林水産部）

緊急発掘調査の概要（※印は国庫・県費補助事業、△印は試掘）

（調査主体のカッコ内は調査担当者名）

丹生川上城跡（員弁郡大安町丹生川上）

事 業 名　一般国道３０６号道路改良事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和５９年４月１１日～昭和５９年１１月１日

調査面積　延4,０３０㎡

概　　要　前年度からの継続事業である。遺跡は一志断層群によって生じた鈴鹿山脈の前衛丘陵に位置し、東面する。調査地は居館群の西端、すなわち最も奥まった場所であり、かつ東隣する郭とは８ｍ余の落差を有する。また自然地形の卓越する前年度調査地と異なり、広大な平坦面を有する。従って当初より重要遺構の検出が期待された。調査の結果、８間×７間（含廂）の礎石建物、土壇上に設けられた納骨遺構（配石一辺５ｍ、石組土坑径３ｍ）をはじめ、井戸３基、石段、土塁、空堀などが検出された。遺物から３時期が考えられる。Ⅰ期、１２世紀中・後期（山茶椀）、Ⅱ期、１３世紀中・後期～１４世紀初（山茶椀・古瀬戸壷・五輪石３０余個）、Ⅲ期、１６世紀前半（大窯製品）である。礎石建物はⅢ期、納骨堂はⅡ期末である。以上、本遺跡は１２世紀以降寺院（正法寺）として営まれ、二度の衰退期を経て戦国時代には城館として使用され近世前夜に廃絶したと考えられる。

赤堀城跡（四日市市城東町）

事 業 名　四日市都市計画道路堀木日永線道路改良工事

調査主体　四日市市教育委員会（北野　保）

調査期間　昭和５９年９月１５日～１２月１５日

調査面積　1,２００㎡

概　　要　城跡は、標高2.５ｍに所在し、田原孫太郎景信が応永年間（１３９４～１４２８）に築城し、天正３年（１５７５）及び天正１２年（１５８４）に

廃絶したといわれている。

発掘調査は、道路改良工事予定地のうち、幅５ｍ、長さ２４０ｍの範囲を対象に行なった。その結果、礎石建物跡２棟、溝３条、土拡などが検出された。

特に礎石建物跡２棟は、調査範囲外に延びているため全体の規模は不明であるが、この付近から集中した状態で多量の遺物が出土した。

量的に最も多いのは土師器皿で、その他に鍋、 山茶碗、青磁、天目茶碗、染付、陶器などがある。そのうちの１点、土師器皿の底部外面には「祢つ三」の文字と、“ねずみ“を描いた墨書が認められる。

土製品には、小指大の犬型土製品２つや土錘、土玉が、鉄製品には、こうがい、刀子などがある。

木製品には、木簡１点、箸、下駄、漆器椀、櫛、すりこぎなどが豊富にあり「飛車」と「桂馬」の将棋の駒も発見された。また、銭貨も宋銭を中心に４２枚出土した。

そして、調査地区の最北部では、長さ２５㎝、幅１３㎝や長さ１７㎝、幅８㎝などの“人の足跡“が多方向に歩いた状態であるが、残存していた。

西ノ山古墳（四日市市山城町）

事 業 名　民間宅地分譲事業

調査主体　四日市西ノ山古墳発掘調査会（北野　保）

調査期間　昭和５９年１２月１８日～昭和６０年２月５日

調査面積　４００㎡

概　　要　朝明川の南岸、標高約５０ｍの丘陵斜面であさけ団地の東南部に位置する。発掘調査の結果、古墳は墳丘中腹部にこぶし大の葺石を全体に施した直径２０ｍ、高さ２ｍの円墳であることが確認された。

ただ、内部主体については墳頂中央部に盗掘拡があり、墳丘断面にも石材等は確認されないため、おそらくは木棺直葬と思われ、遺物も主体部付近では全くなかったが６世紀と推定される。

山城遺跡（亀山市川合町）

事 業 名　一般国道１号亀山バイパス建設工事

調査主体　三重県教育委員会

調査期間　昭和５９年９月１１日～１１月２４日

調査面積　1,０００㎡（山田　猛）

概　　要　今回Ｅ区、Ｗ区の２箇所を発掘調査した。

Ｅ区は、古墳時代前期、及び鎌倉時代の２時期を中心とした集落跡であり、古墳時代の竪穴住居が、８基確認された他、その頃の溝や、鎌倉時代の墓地・溝・柱穴がみつかった。竪穴の１つからは、古式土師器の甕・壷・高杯が、当時の床面から出土した他、他の竪穴では、カマドの存在が確認された。又、溝の１つからは、古式土師器が、きわめて大量に出土している。墓地からは、鎌倉時代のものとみられる短刀１本や土師皿が出土し、副葬品であると考えられる。

Ｗ区にも、中世のものとみられる柱穴や、土坑等の遺構が存在し、山茶碗、山皿、土師皿等の土器が出土している。また埴輪の小片が見つかったが、Ｗ区の西側に隣接する丘陵には、中世城館跡（上椎木館跡）が古墳（上椎木１号墳）をとりこんで存在しているので、その古墳と関連した遺物ではないかとみられる。

谷山古墳（亀山市井田川町）

事 業 名　一般国道１号亀山バイパス建設工事

調査主体　三重県教育委員会（山田　猛）

調査期間　昭和５９年７月３日～８月２９日

調査面積　１００㎡

概　　要　昭和５０年崖面から鉄刀一本が出土した事実を受けて、同年、県教育委員会文化課により一部試掘調査が行なわれている。今回の全面発掘調査により、墳丘は、東西１３ｍ程（南側は崖で崩れている）、高さ約1.５ｍの方墳で複数の主体部をもっていたことが確認された。第一主体部は崖で崩れていたが、第二主体部は遺存していた。埋葬は木棺直葬であり、棺の木口には小円礫が当

てられていた。主体部からは、首飾りであったとみられる玉（碧玉製管玉（10点）、埋木製ナツメ玉（１点）、ガラス小玉（５５点））、長さ１１２㎝の鉄刀１本の他、須恵器の杯身、杯蓋等が出土した。又、墳丘の北東斜面では、円筒埴輪がみつかった。出土した埴輪から古墳の築造期は５世紀後半であるが、追葬らしい第二主体は６世紀前半と推定される。

三行城跡（河芸町大字三行字住持）

事 業 名　県道三行・上野線道路改良事業

調査主体　三重県教育委員会（梅澤　裕）

調査期間　昭和５９年１１月６日～１２月１３日

調査面積　１,０５０㎡

概　　要　今回の調査範囲は五郭以上を持っていたと考えられる三行城のうちの二郭にあたる。発掘調査の結果、遺構としては堀り切りと土塁が確認された。堀り切りは、やせ尾根を幅数ｍ切断したものであり、土塁は１ｍ程の高さで、内側に溝をもつ。遺物は大型の甕の破片が数点と、鍋の細片一点が出土したのみである。以上の点により、今回調査を行なった二郭は臨戦用の詰め城であったと考えられる。

川北城跡・川北遺跡（津市川北）

事 業 名　住宅団地造成

調査主体　津市教育委員会（萱室康光）

調査期間　昭和５９年４月～８月

調査面積　１２,０００㎡

概　　要　志登茂川左岸の丘陵上に広がる弥生時代中期、古墳時代、奈良時代、鎌倉・室町時代にわたる遺跡である。

○古墳時代　前期の竪穴住居跡７３軒とほぼ同時期の方形周溝墓７基確認されている。住居跡の大部分は排水溝を持つ。６Ｃ後半の円墳２基検出され、一基は横穴式小石室を持つ。

○奈良時代　調査区の北東隅から検出され、方形ピットを持つ大型の掘立柱建物が中心である。

○鎌倉・室町時代　川北城跡に伴うもので、５０ｍ×７０ｍの堀で囲まれた主郭を中心に８～９の郭で構成されている。掘立柱建物６０棟、井戸３基などが検出されている。堀を中心に山茶椀・山皿・土師器・磁器などが出土している。

稲葉・鎌切古墳群（津市神戸）

事業名　住宅団地造成

調査主体　津市教育委員会（萱室康光）

調査期間　昭和５９年１１月～昭和６０年４月

調査面積　6,０００㎡

概　要

稲葉・鎌切古墳群一覧表

古名	型	規模(m)	主体	時期	副葬品 棺内	副葬品 棺外	副葬品 丘	備考
稲葉１号墳	円墳	径１９	木棺直葬	６Ｃ後半	刀子１、鉄鏃２、耳飾１	須恵器、短壷１、台付鉢１		
〃２〃	〃	径１８	不明	６Ｃ後半			須恵器杯蓋２、身２、高杯２、提瓶１、土師器壷１	主体部流出
〃３〃	〃	径１８	木棺直葬	５Ｃ末	鉄剣１、刀子１		須恵器高杯、円筒埴輪、形象埴輪（人物・馬）	須恵質埴輪
〃４〃	〃	径１２５	〃	〃			須恵器杯蓋４、身２、高杯蓋１、高杯１、広口壷１、円筒埴輪、形象埴輪（人物）	須恵質埴輪、墳端より、円筒埴輪棺内より白玉７
〃５〃	〃		不明	〃			須恵器杯蓋１、身２、高杯蓋３、円筒埴輪、形象埴輪（人物・鶏・馬）	墳頂に盗掘、墳端に土坑墓(?)
鎌切３号墳	前方後円	全長３４、後円径１９、前方巾13m	木棺直葬	６Ｃ前半	馬具一式、直刀２、刀子４、鉄鏃12、管玉22、なつめ玉１、臼玉１、ガラス玉３、ビーズ玉20	○棺底、須恵壷１、鉄鏃14、○棺上、須恵器壷１、杯身１、蓋２、直刀１、刀子４	須恵器杯身８、蓋９、壷４、壷蓋１、提瓶１、徒瓶１、円筒埴輪	
〃４〃	円墳	径１１	〃	７Ｃ前半	短刀１、土製玉３、須恵器杯身１			
〃７〃	〃	径１７	不明	６Ｃ中			須恵器杯、円筒埴輪	神社のため墳丘破壊
ＳＸ　１	方形周溝墓	一辺１０	〃	弥生末			周溝より土器多数	わずかに盛土
ＳＸ　２	〃	一辺　7.5	〃	〃			〃	
ＳＢ　１	弥生住居跡	一辺　５						
ＳＢ　２	〃跡	不明						

平田古墳群（安芸郡安濃町大字妙法寺）

事 業 名　安濃菱水苑造成

調査主体　安濃町遺跡調査会（松原隆治・伊藤英晃・竹内英昭）

調査期間　昭和５９年６月１８日～昭和６１年３月３１日

調査面積　約２０,０００㎡

概　　要　平田古墳群は、安濃川中流域右岸、長谷山山麓から東北方向に延びる標高約２５～６０ｍの低丘陵上に所在する約３３基の古墳から成る。今回、団地造成工事に伴い、１２基の古墳を対象に調査を開始した。

ところが、今年度の調査の結果、現在までに横穴式石室墳・小石室墳１０基木棺直葬墳５基、木棺あるいは土坑に直接葬ったと考えられるもの１４基、中世墓５基、合計３４基に及ぶ墳基が検出され、未調査地域にも膨大な数の墳墓が存在する可能性が高くなった。副葬遺物には、頭椎大刀をはじめとして、刀子・金環・鉄鏃・須恵器・土師器などが出土した。また、中世墓からは、古瀬戸水注・山茶椀・鉄製品・土師器が出土した。調査済の古墳の築造年代は６世紀後半～７世紀後半、中世墓は１２世紀前半と考えられる。

牧遺跡△（久居市牧町）

事 業 名　牧遺跡試掘調査

調査主体　久居市教育委員会（辻冨美雄）

調査期間　昭和５９年６月２８日～５９年７月３日

調査面積　２０８㎡

概　　要　宅地開発事業が予定され、開発予定地全域５,３９８㎡に対し、１４ケ所の試掘調査を実施した。遺構はピット、溝などで６世紀代の遺物を出土する。ほかの遺物としては、奈良時代の須恵器・土師器が少量出土した。

古市遺跡※（一志郡白山町白市）

事 業 名　昭和５９年度県営圃場整備事業（白山西部）

調査主体　三重県教育委員会（増田安生・田村陽一）

調査期間　昭和５９年５月２８日～７月６日

調査面積　２,０００㎡

概　　要　古市遺跡は、雲出川左岸の河岸段丘上に立地し、標高４５ｍ前後をはかる。周辺には、雲出川に沿って算所遺跡・大角遺跡・上野西遺跡等縄文～弥生時代遺跡がある。

排水路部分について幅２～３ｍのトレンチ状調査を行った。結果全面に遺構が確認された。遺構は、主として鎌倉時代から室町時代のものであった。主要遺構としては、大溝・石組溝・石垣・区画溝、１辺２ｍ前後で深さ４０㎝の方形土坑４基、掘立柱建物８棟・井戸２が検出された。

遺物は、縄文後晩期の土器１３点、弥生時代甕、平安時代後半土師器・黒色土器・鎌倉時代の山茶碗・瓦器・土師器皿・室町時代の土師器皿、常滑産甕・捏鉢・瀬戸産卸皿・四耳壷・信楽産擂鉢・輸入青磁等を出土している。

線的な調査であったが、古市の名称が示唆する中世の流通の拠点を発掘し、その実像がわずかではあるが、浮び上がった意義は大きい。

片野遺跡（一志郡一志町片野）

事 業 名　県道丹生寺・一志線特殊改良事業

調査主体　三重県教育委員会（河瀬信幸）

調査期間　昭和５９年５月２２日～１０月３１日

調査面積　約４,２５０㎡

概　　要　北に雲出川を望む標高約１２ｍの洪積台地上に位置する。当遺跡は以前より縄文～近世におよぶ複合遺跡として知られており、現況は桑畑である。調査は近鉄大阪線沿いの道路敷予定部分の約４４３ｍ×１０ｍに限り実施した。その結果、発掘区全域に各時代の遺構が検出され、遺物が出土した。

主な遺構としては、縄文時代の土坑３、弥生時代中期の土坑２５、方形周溝墓１基、溝４、古墳時代の竪穴住居２３棟、土坑２、溝５、奈良・平安時代の竪穴２、掘立柱建物１１棟、鎌倉・室町時代の井戸３、近世の井戸１、溝２、

などである。特に古墳時代の竪穴住居はその数の多さから、この地域がかって大集落であった可能性をうかがわせる。

出土遺物は各時代にわたっている。縄文時代のものは前期の土器片が数点出土しているのみであるが、弥生時代中期の遺物がその多数を占めている。方形周溝墓からは第Ⅱ様式の壷が、又、土坑からも第Ⅲ様式の壷が出土している。この土坑についてはその隣接する土坑からも同形の壷が出土しており、その位置関係から考えると方形周溝墓の可能性もある。その他弥生時代の遺物としては、石庖丁、石鏃、柱状片刃石斧などがある。古墳時代の遺物は土師器が多く須恵器が少ない。それ以降の遺物としては、平安時代の緑釉陶器、灰釉耳皿、鎌倉・室町時代の山茶碗、近世以後の施釉陶器などが出土している。

釜生田瓦窯跡※（一志郡嬉野町釜生田）

事 業 名　国庫補助範囲確認調査

調査主体　嬉野町教育委員会（辻冨美雄）

調査期間　昭和５９年７月１６日～５９年１０月１６日

調査面積　６００㎡

概　　要　嬉野町には五ケ所の白鳳時代の寺院跡がある。釜生田瓦窯跡群は嬉野町を流れる中村川の河岸段丘端部の斜面に形成されている。瓦窯跡は５基で構成され、３基は窖窯、２基は平窯となっている。発掘調査は窖窯２基、平窯１基を実施し、残る２基はその範囲の確認にとどめた。発掘調査終了後は埋めもどし、調査前の旧状にもどした。

第２号窯跡は鴟尾片を出土した窖窯で、床面・壁は良好な状況で検出された。全長は６.５ｍ、窯体の比高２.４６ｍを測る。焼成部は長さ約１.１ｍの２段の大きな焼成段をもつ特異な構造である。鴟尾は２つの焼成段のそれぞれに上向き方向に正立して設置されていた。

第３号窯は全長６.８ｍの窖窯で、窯体を完全な形で検出できた。焼成段は16段の細かい階段状で、燃焼部にむかえ、しぼりこみ瓦を積んだたき口部に至る。

第５号窯は全長２.９ｍ、幅１.８ｍの半地下式ロストル平窯である。窯体は天

井部を除くほかは良好に検出された。焼成部は5条のロストルをもち、ロストル先端に人頭大の石をすえ隔壁基部としている。燃焼部は大きく「Ω」形となり、石を立てたたき口に至る。

出土遺物は第2号窯からは鴟尾2基が出土し、それぞれの形式に若干の違いが見られる。平瓦は2種類あり、窯体使用のそれは凸面におけ巻のこん跡を残すものである。他は通常のおけ巻成法のものである。第3号窯からは重弧文軒平瓦・複線鋸歯文複弁軒丸瓦があり通常のおけ巻成法のものである。第5号窯の瓦は第2・3号窯のそれより年代の下るものである。

釜生田瓦窯跡群は白鳳～天平期に至る年代をもち、窯体は窖窯と平窯が混在している。中村川下流に林立する白鳳寺院の築造豪族の瓦山としての性格をもっていると考えられる。

草山遺跡（松阪市久保町字草山、下村町字草山）一部※

事 業 名　三重交通株式会社　宅地造成

調査主体　松阪市教育委員会（榎本義譲・伊勢野久好）

調査期間　昭和59年4月1日～昭和60年1月21日

調査面積　9,000㎡

概　　要　昭和57年5月10日より継続している調査で、今年度をもって、現地調査を全て終了した。

今年度の調査は、西側の低丘陵と東側丘陵の北東端、約9,000㎡である。このうち、東側丘陵の北東端2,600㎡については、民有地であるが、造成時に1.5mの盛り土がなされることや、将来の宅地化が予想されるため、国・県の補助を受け調査を行った。

3年間の総調査面積は29,000㎡で、久保古墳以北に広がる遺跡のほぼ全体を調査し

時　　期	主な遺構	遺構数
弥生後期	竪穴住居	125
（古墳時	掘立柱建物	111
代初頭を	方形周溝墓	28
含む。）	大　溝	1
	井　戸	1
古　　墳	古墳（円墳）	1
（5世紀末）	方形台状遺構	1
奈　　良	竪穴住居	11
	掘立柱建物	28
	溝	1
	井　戸	3
鎌　　倉	掘立柱建物	45
	溝	13
	井　戸	25

た結果となった。検出した主な遺構は、右の表に示したとおりである。

以下、今年度の主な調査結果について時代別に記すことにする。

弥生時代後期――注目すべき遺構として、東側丘陵の北東側で検出した大溝（１２３ｍ分）がある。この大溝は、尾根頂部より始まり、尾根を横断し、途中６ｍの間途切れ、団地造成地外へとほぼ直線的に延びるもので、集落との関係については、今後検討していかねばならない。また、竪穴住居と掘立柱建物との比率については、斜面にあって片側の桁行柱が消滅したと考えられるものを含めると、ほぼ１：１に近い数値となり、当初、梁行１間と考えていた掘立柱建物についても、梁行２間のもののほか、いろいろなタイプのものがあることが明らかになった。遺物については、大溝及び火災廃絶後に廃棄場所となった竪穴住居より多量の土器が出土し、土器の編年を考える上で貴重な資料を得ることができた。なお、奈良時代の溝（後述）の混入品ではあるが、銅鐸形銅製品（小銅鐸）と銅鏃が同じ場所により出土している。

奈良時代――東側丘陵の北東端に位置する井戸と、それとセットをなすと考えられる溝とがある。井戸は３回にわたり改築使用されたもので、良好な井戸枠が高さ１.７ｍ分残っていた。井戸枠は、古い井戸枠の横板２段分を残し、その上に底板３枚を並べ、新しい井戸枠を築いたもので、下の井戸枠内より土師器甕・須恵器（墨書）・木製釣瓶（以上奈良時代）が、上の井戸枠内より土師器甕（平安時代前葉）が出土した。この井戸と溝は、当期の集落から２００ｍ程離れて位置しており、集落内には生活用の井戸があることや、深い溝が井戸から始まることなどから考えると、何か特別な役割りを持っていたのではないかと思われる。

鎌倉時代――谷地形部分から西側の低丘陵にかけては、平安時代末から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や井戸・溝などが広がっており、その頃の村落を考える貴重な資料となっている。中でも、その集落の核をなすと考えられる建物として注目しているものに、建物の東南隅に１間×２間分の長方形の土坑を有する４間×４間～４間×５間規模大の掘立柱建物がある。今年度の調査で、その

数はさらに増し、これまでのものを合わせ、７ケ所、１２棟が確認された。この長方形の土坑については、室町及び江戸時代等の民家側からして、「厩屋」ではないかと考えている。

なお、今年度の調査概要については、月報９～１０に報告したとおりである。

曲遺跡※（松阪市曲町）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋）

調査期間　昭和５９年１０月１５日～同年１２月１０日

調査面積　３,５００㎡

概　　要　曲遺跡は堀坂川右岸の沖積地内の微高地上に所在する。発掘地は道路を隔てた南（Ａ区）と北（Ｂ区）に分かれる。Ａ区で検出した遺構は、奈良時代末から平安時代全般を中心としたもので、掘立柱建物群、井戸跡２基、溝、塀等がある。時代は３あるいは４時期に細分される。出土遺物としては土師器須恵器、灰釉陶器、山茶椀等の他、緑釉陶器もかなりの量出土している。土師器の中には「奥」銘の墨書がみられるものがある。Ｂ区はＡ区に比べ時期的に下り、平安時代後半～末葉の遺構を中心とし、鎌倉時代の土坑墓も検出されている。当集落（掘立柱建物群）の変遷は時代が下るにつれて南西から北東に向っての変遷がうかがうことができるが、平安時代の集落構造を考えるの中で、当遺跡の性格については一般的集落なのか否かについて等、今後検討すべき課題は多いと言えよう。

岸本遺跡△※（飯南郡飯高町深野字岸本）

事 業 名　昭和５９年度県営畜産経営環境整備事業

調査主体　三重県教育委員会（増田安生）

調査期間　昭和５９年５月２２日・９月９日～９月１０日

調査面積　５３６㎡

概　　要　櫛田川と蓮川の合流点より約１㎞下流、櫛田川がゆるやかに蛇行しな

がら北流している地点に、深野字岸本は位置する。西から東へ高度を下げる緩傾斜面が広がり、比高約８ｍの段丘崖をもって櫛田川に接し、水田が開かれているところである。水田面に４ｍ×２ｍの試掘坑を１８ケ所設定した。うち７ケ所から縄文後期土器、中世土師器を出土した。柱穴を確認した面について４００㎡を本調査した。

鎌倉時代掘立柱建物（３間×２間）が、一棟検出された。桁行7.5ｍ×梁行5.5ｍで柱穴径４０㎝をはかる。一辺６０㎝の方形土坑が２基重複してあり、平たい川原石が中に数個入っていた。この中からは、室町時代鍋がほぼ完形の状態で出土した。中世墓の可能性もある。

包含層の遺物としては、縄文後期土器、弥生時代甕片、山茶椀等が出土している。

山崎遺跡他（多気郡多気町牧地）

事業名　近畿自動車道伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（高見宜雄ほか）

調査期間　昭和５９年１２月７日～昭和６０年３月２５日

調査面積　１４,３３０㎡

概　要

遺跡名	面積	期間	所在地	遺構	遺物
山崎遺跡	5,800㎡	昭和60年１月28日～3月26日 昭和59年12月10日～13日（第１次調査）	多気町牧	竪穴住居跡２ 方形周溝墓１ 溝・土坑・柱穴等	縄文土器・弥生土器・石鏃、山茶碗、土師器片等
浅間山北遺跡	1,000㎡	昭和60年１月28日～2月23日 昭和59年12月10日～13日（第１次調査）	〃	柱穴等	土師片、近世陶器片
下村A遺跡	7,480㎡	昭和60年１月29日～3月25日 昭和59年12月７日～12月13日（第１次調査）	勢和村下村	焼土面	山茶碗・土師器片・瓦器片等
下村B遺跡	48㎡	昭和59年12月12日～12月13日（第１次調査）	〃	なし	土師片等若干

ミゾコ遺跡（多気郡多気町四神田）

事 業 名　県道仁田相可口線改良事業

調査主体　三重県教育委員会（増田案生）

調査期間　昭和５９年９月１７日～１１月１３日

調査面積　1,６００㎡

概　　要　多気町四神田の集落の北３００ｍに位置し、現況水田である。県道の改修に伴い道路の両側を２ｍ～３ｍ幅で発掘した。古墳時代竪穴住居１棟、平安末～鎌倉時代井戸４、道路１、大溝１、石組橋基底部１対、溝９条、室町時代堀を検出した。主として平安末から室町時代にかけて営まれた集落跡であることが判明した。

遺物としては、古墳時代竪穴住居出土の土師器甕、平安末から鎌倉時代土師器皿、山茶碗、常滑甕、竜泉窯系青磁、室町時代土師器鍋・羽釜・皿・擂鉢・瀬戸灰釉平碗、天目茶碗、等が出土している。特に、条里溝に比定される大溝から出土した土師器皿・山茶碗・常滑甕等の一括遺物は、良好な資料である。

北野遺跡△（多気郡明和町斎宮字大頭）

事 業 名　宅地造成事業

調査主体　明和町教育委員会（中野敦夫）

調査期間　昭和５９年６月１１日～６月１４日

調査面積　２０８㎡

概　　要　北野遺跡は、勝見第二集落南、標高１３ｍの段丘上位面に位置する。事業地は、遺物散布地東端の低い所にあたり、事業計画面積7,３４０ｍに４ｍ×４ｍの試掘　を１３カ所設定し調査した。

調査の結果、層序は盛土・耕作土・地山の３層で、各試掘坑からの遺物・遺構は認められなかった。

発シＣ遺跡（多気郡明和町有爾中字発シ）

事 業 名　国営宮川用水土地改良事業

調査主体　明和町教育委員会（中野敦夫）

調査期間　昭和５９年９月１０日～９月２５日

調査面積　１２０㎡

概　　要　発シＣ遺跡は、玉城丘陵北端、標高２５ｍの丘陵で明和団地南の山林に位置する。この周辺では、土師器焼成坑など多くの遺構が見つかっており、土器生産集団の存在が明らかになっているところである。今回の調査は、国営宮川用水の改修に伴って仮用水路をつくるため、７月におこなった試掘調査の結果に基づいて行ったものである。調査は、全長４０ｍ、幅３ｍのトレンチ調査であり、検出した遺構は土師器焼成坑６基、竪穴住居１棟、溝２条、土坑２である。土師器焼成坑はすべて隅丸二等辺三角形のものと考えられ、壁・床面は赤く焼けていた。これらの中には大量の土器が捨てられた状態で上層から床面までつまっていたものや、６世紀後半の須恵器杯身が出土したものもある。又、竪穴住居は、土師器焼成坑の上に床を張ってつくっており、周溝・柱穴をもつもので、時期は７世紀代と考えられる。遺物は大量の土器が出土しているが、数点の須恵器の他はすべて土師器であり、その８割程が甕である。

今回の調査は、トレンチ調査で各遺構の全容を明らかにすることはできなかったが、土師器焼成坑の中に、現在発見されている中で最も古い６世紀後半～７世紀にあたるものがあり、土器の捨て場として再利用していたと考えられるものもある。又、溝から６世紀後半の須恵器杯蓋・杯身・短頸壷と共に大量の土師器が一括資料として出土したことなど数多くの好資料を得ることができた。

赤坂遺跡（多気郡明和町大淀南区）

事 業 名　県道大淀港斎明線道路特殊改良事業

調査主体　明和町教育委員会（中野敦夫）

調査期間　昭和５９年１１月６日～１１月９日

調査面積　２７２㎡

概　　要　赤坂遺跡は、赤坂集落の西、標高３.７ｍの段丘中位面に位置し、地目は畑地で中世の遺物が散布しているところである。事業計画全長９００ｍのう

ち周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれる２００ｍについては２０ｍ間隔で、それ以外を３０ｍ間隔で２ｍ×４ｍの試掘坑を３４カ所設定し調査した。

その結果、時期不明の溝３条と土坑２を検出した。遺構内からの遺物の出土はまったくなく、包含層からもわずか数点出土しただけである。

金剛坂遺跡 ※（多気郡明和町金剛坂字坂垣内）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（田村陽一）

調査期間　昭和５９年６月２７日～８月３１日、１０月１日～１２月６日、昭和６０年３月４日～３月２３日

調査面積　第１次1,７００㎡　第２次2,６００㎡　第３次７５０㎡

概　　要　櫛田川の旧本流であった祓川右岸の沖積低地に臨む、比高３～５ｍの洪積台地（明野原面）の縁辺に位置する。今回は圃場整備にかかる用排水路部分と削平部分の約5,０５０㎡の調査を３次に分けて行なった。第１次調査では弥生時代前期の溝や、後期の溝、方形周溝墓５基、奈良時代の竪穴住居２棟、中世墓などを検出し、弥生時代前期の壷、甕、蓋や赤色塗彩されたパイプ形土器、後期の壷や須恵器、土師器が出土した。第２次調査では、弥生時代後期の方形周溝墓７基、土器棺墓１、鎌倉時代の溝、掘立柱建物１棟を検出し、弥生時代後期の壷、高杯、山茶椀などが出土した。第３次調査では方形周溝墓２基古墳１基（周溝のみ）、土器焼成坑１基、竪穴住居２戸、掘立棟建物２棟、中世墓１基などを検出、円筒埴輪片多数をはじめ多くの遺物が出土した。南北約６００㎡にわたる当遺跡では台地の縁辺部に大規模な方形周溝墓群が広がることが判明した。弥生時代の集落跡は確認されなかったが、当時の集落と墓地との関係や、墓制の在り方や変遷などを考えるうえでの貴重な資料を提供した。

斎宮跡 ※（明和町斎宮）

事 業 名　史跡現状変更

調査主体　明和町教育委員会

調査期間　昭和５９年３月７日～昭和６０年２月１２日

調査面積　2,７７５㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積 ㎡	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
53－ 1	6ACM－P	1,250	59. 3. 7～59. 5. 9	明和町竹川字東裏	明和町	体育館増設
53－ 2	6ACA－M	112	59. 5.17～59. 5.29	明和町斎宮字古里	個人	個人住宅
53－ 3	6ABE	180	59. 8.13～59. 8.23	明和町竹川字古里	個人	〃
53－ 4	6ACL－S	70	59. 8.22～59. 8.30	明和町竹川字東裏	個人	〃
53－ 5	6ACR	27	59. 8.24～59. 8.29	明和町斎宮字木葉山	個人	〃
53－ 6	6AGO	140	59. 9. 3～59. 9. 4	明和町斎宮字鍛治山	明和町	町道側溝新設
53－ 7	6ADD－U	64	59. 9. 6～59. 9.19	明和町斎宮字篠林	個人	個人住宅
53－ 8	6AGE－O	58	59. 9.21～59. 9.29	明和町斎宮字東前沖	個人	〃
53－ 9	6ACS－O	305	59.11.22～59.11.30	明和町斎宮字木葉山	個人	〃
53－10	6ACA－R	33	59.11.22～59.11.28	明和町斎宮字古里	個人	〃
53－11	6ADR－W	363	59.12.19～60. 1. 8	明和町斎宮字木葉山	個人	〃
53－12	6ABL－K	70	60. 1.26～60. 1.28	明和町竹川字中垣内	個人	〃
53－13	6ADQ－L	103	60. 2. 4～60. 2.12	明和町斎宮字牛葉	個人	〃

斎宮跡※（明和町斎宮）

事業名　重要遺跡確認調書

調査主体　三重県教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和５９年５月７日～昭和６０年３月５日

調査面積　6,７００㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積㎡	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
54	6AFE−N	1,630	59. 5. 7〜59. 7.31	明和町斎宮字西前沖	個人	計画的面調査
55	6AEN−P	1,500	59. 7.21〜59.10. 3	明和町斎宮字柳原 明和町斎宮字御館	個人 明和町	計画的面調査
56	6ACH−S	1,870	59. 9.17〜59.11.22	明和町斎宮字東裏	個人	計画的面調査
57	6AGF−H・I	1,700	59.12.17〜60. 3. 5	明和町斎宮字東加座	個人	計画的面調査

隠岡遺跡（伊勢市倭町字隠岡）

事業名　市営住宅地造成事業

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和59年9月11日〜12月6日

調査面積　2,300㎡

概　要　本遺跡は、近鉄宇治山田駅東600mの市街地に唯一自然地形の残る舌状に伸びた標高21m前後の上位段丘地端に所在する。眼下には、御幸道路が並走し、前面には広大な沖積地が広がっている。道路にて分断された東側には尾部古墳（倭姫命御陵伝承地）が、また、南方の八幡山、永代山、虎尾山等にも古墳が多く分布し、この周辺地は市内でも古墳分布の一地域を形成する。

検出遺構は、弥生時代後期の竪穴住居19棟、排水路及び溝をはじめ、平安時代中葉〜末葉頃（10世紀前半〜12世紀末葉）の掘立柱建物、土坑、溝等及び中世墓がある。

出土遺物も西ケ広期〜欠山期の弥生後期の土器、磨製石斧、0−53窯期〜百代寺窯期に相当しそうな灰釉陶器、甕、鍋、山茶椀、志摩式製塩土器、渥美窯壷等多数出土した。一部奈良後半の土器もある。

以上、本遺跡では弥生時代後期の集落跡と、平安時代の建物群を検出したが調査成果からは、次の2点が特筆されよう。

1. 宮川下流域の弥生後期の展開は、宮川右岸市街地まで波及していたことが確実となった。というのも、これまでは左岸中位段丘上の中楽山、野垣内遺跡（上地町）等で、南勢地方屈指の大集落の形成は窺えたが、右岸では佐八藤波、万所遺跡等で遺物散布が認められる程度の稀薄な状況であったからである。
2. 大型柱掘形で構成される5間×2間、3間×2間等の掘立柱建物は、柱筋方向を揃えたものや、緑釉陶器の出土より、平安時代中葉頃に「尾上長」と称された豊受宮祢宜度会康平、彦晴、貞雄の居住地である可能性が考えられる。

なお、当初この付近に所在したと推定された度会二門の氏寺で、平安時代から明治2年まで存在した「常明寺跡」を検出できることが期待されたが、調査成果からは、これらに伴う遺構、遺物は認められず、道路を狭んだ西方に所在したものと考えられる。

東遺跡△（伊勢市西豊浜町字東5407番地）

事 業 名　店舗用敷地造成事業

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和59年6月28日

調査面積　64㎡

概　　要　今回の開発予定地は、東遺跡と丁塚古墳の間に位置する水田地である。分布調査の結果遺物散布は認めることはできなかったが、『豊浜村考古誌考』等より遺跡所在の可能性が窺えるため、開発予定面積約1,800㎡のうち、4m×4mの試掘坑4ケ所の調査を実施した。

調査の結果基本層序は、耕作土、床土、黒色土、地山となり、Ⅲ層の黒色土中にも遺物は包蔵されなく、また、遺構も各試掘坑で検出されなかった。

このことより、東遺跡は今回の調査地より南側に位置する一段高い畑地を中

心に広がっていると考えられよう。

元新田遺跡（伊勢市津村町白木字元新田）

事 業 名　個人住宅宅地造成事業

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和６０年１月２３日

調査面積　基礎工事立ち合い

概　　要　元新田遺跡は、市内唯一の旧石器時代の明確な遺跡である。（縄文晩期、弥生中期、古墳時代～中世に至る遺物散布地でもある。）今回、遺跡の北東端部に２４８㎡の個人住宅建設計画がなされた。

そこで、基礎工事時に工事立ち合いを実施したが、基本層序は黒色土（耕作土）、黄褐色粘質土となり、建物基礎は黒色土内で施行された。

立ち合い中には遺物出土はなく、黄褐色土まで掘り下げた便槽排土中にも遺物は認められなかった。

宮山古墳（南勢町礫浦）

事 業 名　町誌編纂

調査主体　南勢町教育委員会・関西大学文学部考古学研究室（米田文孝）

調査期間　昭和５９年６月２５日～８月３日

調査面積　６５㎡

概　　要　宮山古墳は、五ケ所湾に面した礫浦地区南方の標高約２３ｍの尾根上に位置し、直径約１２ｍ、高さ約３ｍの円墳で、周辺に４基の円墳がある。内部主体は西に開口した横穴式石室で、掘形は長さ約７ｍ、幅約２.５ｍ、深さ約２ｍの長方形である。石室は盗掘に伴う落石のため旧状は損われているが、全長６.７ｍ、玄室幅１.９ｍ、高さ２.１ｍで、天井石は玄室部６石、羨道部２石がある。奥壁の腰石は３石を縦位で並列し、その上部にやや小さい石を小口積している。

玄室床面の副装品の配列状態から、２～３体の埋葬が推定された。副葬品は

須恵器（杯身・杯蓋・高杯）１０５点、土師器５点、金銅耳環５点、銅椀１点鉄刀子７点、鉄剣１点、鉄刀２、鉄大刀１がある。須恵器の形式より築造時期を６世紀前半、改葬時期を６世紀後半と考えられる。なお、大刀の環頭は直径１０㎝、短径７㎝の楕円形で、玉を挿んで対向する双竜文を透し彫りした金銅装で、鞘は金銅装板巻きで列点状の鎖文様が打ち出されている。

竹ノ下遺跡（上野市森寺字竹ノ下）

事 業 名　木津川改修事業矢田川工区

調査主体　三重県教育委員会（吉水康夫・上村安生）

調査期間　昭和５９年６月４日～８月１６日

調査面積　１,３５０㎡

概　　要　木津川支流矢田川の開析による平地に所在しており、上野市南部にあたる。調査は、Ａ・Ｂ・Ｃの三地区を設定して行なった。Ａ地区においては、鎌倉時代以降の畦畔状遺構が確認され、水田跡が想定される。この畦畔は、幅４０㎝、１６０㎝、高さ１２㎝～２０㎝の断面台形を程するもので、その形成は、置土によるものか削り出しによるものかは区別できず不明であった。出土遺物は、土師器、須恵器、瓦器の細片である。Ｂ地区においては、幅２ｍ×70ｍ、２ｍ×４５ｍの二本のトレンチを設定し、調査を行なったが、遺構は確認されなかった。出土遺物には、磨滅した土師器・須恵器・瓦器の細片がある。Ｃ地区においては、幅５０㎝、長さ３ｍ余りの溝が一条確認されたのみで、出土遺物は、磨滅した弥生土器・土師器・須恵器の細片である。出土遺物は、周辺の丘陵上からの流れこみと思われる。

高山遺跡※（上野市高山）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（稲垣良二）

調査期間　昭和５９年５月１０～７月２５日

調査面積　２,０００㎡

概　　要　高山川右岸の、標高２２０～２６０m前後を測る谷底平野に位置し、現況は水田である。

発掘調査は、幹線排水路部分を中心としたトレンチ（Ａ～Ｊトレンチ）、及び、遺跡範囲確認のための試掘坑（１０箇所）による１次調査と、その結果にもとづいた面的な２次調査（Ａ～Ｃ区）とに分けて行なった。

１次調査では遺構は確認されなかったが、２次調査のＢ区から、平安時代末～鎌倉時代前半頃と考えられる総柱的掘立柱建物（４×４間）１棟と、時期不明の溝３条を検出した。遺物は、瓦器を中心として、須恵器・土師器・中世陶器・古銭などが出土しているが、その多くは日用雑器である。

谷遺跡（上野市上郡字谷）

事 業 名　地域改善対策農業基盤整備事業（圃場整備）下郡第二地区）

調査主体　上野市教育委員会（西森平之）

調査期間　昭和５９年１１月８日～昭和６０年２月５日

調査面積　約３,５００㎡

概　　要　上野市上郡集落の西側に位置し、南の山麓から舌状に伸びる微高地である。現況は水田であり、包含層および地山まで削平が進んでいる。

遺構としては、古墳時代前期の竪穴住居３０棟、周溝を残す円墳５基、方墳１基（うち２基は主体部残存）、鎌倉時代前期の掘立柱建物１３棟・井戸１を検出した。遺物については、土師器が主であり、須恵器、瓦器、陶器および石製品が少量混じる。また、古墳周溝より多量の円筒埴輪片および１号墳主体部より鉄刀２振・鉄製品塊が出土した。

前山１号墳（大山田村富岡）

事 業 名　農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会（田中喜久雄）

調査期間　昭和５９年９月３日～昭和６０年１月２６日

調査面積　２５０㎡

概　　要　前山古墳群は、山田盆地を西流する服部川中流域に開けた沖積地後背の丘陵に築造された古墳群のひとつで、１号墳は富岡集落背後の山林の東北側斜面に築造、標高約２０６ｍに位置する。円墳（径１２ｍ・高さ３ｍ）で横穴式石室をもち、東側に開口する。天井石の大部分は石室内に崩落していたが内部の保存状態は良好であった。石室は高さ2.１ｍ、幅1.８ｍ、奥壁から1.５ｍまで敷石され、長径約１ｍの棺台石が2.５ｍ間隔で２個置かれる。玄室と羨道の境界は不明瞭、石室全長は9.５ｍある。主な遺物は、奥の棺台付近から耳環管玉・臼歯各２個をはじめ、ほぼ完形の須恵器杯・高杯・横瓶等、鉄鏃、馬具片、鉄刀片が出土、鉄刀柄には銀象嵌による亀甲文が施文される。遺物出土状態から１遺体以上の追葬が認められる。６世紀末から７世紀初頭にかけての築造であろう。

夏見廃寺 ※（名張市夏見）

事 業 名　重要遺跡範囲確認調査

調査主体　名張市教育委員会（水口昌也）

調査期間　２月１日～３月３０日

調査面積　８００㎡

概　　要　名張市のほぼ中央、男山丘陵南裾にある夏見廃寺は、地籍上名張市夏見字赤坂２３６１番地に位置する。今回の調査は、夏見廃寺の主要伽藍の配置と寺域範囲を明らかにするため３ケ年計画で実施する発掘調査の初年度で、金堂及び寺域西部を中心に約８００㎡を調査した。金堂跡は丘陵斜面に位置するため、斜面上部を削り下方に積み上げて形成した基壇で、東西約１４.４ｍ、南北約１１.２ｍを計る。基壇化粧は川原石による乱石積であるが、北側の斜面上部には石積は見られず、素堀りの溝が掘られている。基壇上には創建期の原位置をとどめる自然石の礎石１９個と抜取り跡１ケ所が確認され、その配列は飛鳥山田寺に似て、身舎及び廂とも間口３間、奥行２間の配置を示し、規模は桁行約8.７ｍ、梁行約6.７ｍである。また、斜面下方より金堂正面に至る全長11.6ｍ、幅6.１ｍの川原石積による階段が検出され、現状では１１段認められる。

金堂西部には、金堂中心より２１.５ｍと４１.５ｍ離れた２地点で南北に延びる掘立柱列を確認した。このうち外側の柱列は、寺域の西限を示すものではないかと推定される。

出土遺物には、大半を占める瓦のほか、塼仏、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、灰釉陶器、釘、鎹などがある。

丈間谷遺跡（名張市蔵持原出字丈間谷）

事 業 名　団体営圃場整備

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和５９年９月１０日～９月２６日

調査面積　４００㎡

概　　要　名張盆地北東部の名張川が東から北に大きく弯曲し流れを変える右岸の高位段丘上で幅広い平坦地に位置する。調査地周辺は、試掘調査の結果、後世の削平により耕土下すぐ灰白色粘質土の地山となる。調査の結果、棟方向を南北にもつ２間×５間の掘立柱建物と１間西に離れて棟方向と平行する幅５０㎝、残存深２５㎝を計る雨落ち状の溝、および溝を集約した調整池状の土坑等を検出した。掘立柱建物は、８０㎝前後の不定円形の柱掘り方をもち、柱間は２ｍを計る。溝および土坑内により出土した須恵器、土師器より７世紀後半のものと考えられる。北西２００ｍに平安から室町までの集落跡である原出遺跡が、南々西１㎞のところに鴻之巣遺跡があり、８世紀初頭に出現すると考えられる鴻之巣遺跡の掘立柱建物群に先行する興味ある建物である。東国への主要道が近隣を通っていた可能性も考えられる。

中村４号墳

事 業 名　宅地造成（新東昭開発（株））

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和５９年８月１日～８月２５日

調査面積　２００㎡

概　　要　名張市南部の箕曲中村と青蓮寺とを隔てる前山丘陵の南斜面に位置する古墳で、大規模な盗掘を受け、墳丘は大きく変形しており、墳形や規模は不明である。主体部は南西に開口する横穴式石室であったが、石材はすべて取り出され、地山面に石材の抜取り穴が残る。石室規模を抜取穴から推定すると、全長3.8m、幅80cmの無袖式、あるいは左側に袖をもつ片袖式と推定される。出土遺物は、須恵器、土師器の破片が少量検出されている。これらの土器から築造時期は7世紀初頭前後と推定される。

小谷古墳群

事 業 名　名張市中央東土地区画整理事業

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和59年5月21日～8月3日

調査面積　2,000㎡

概　　要　小谷古墳群は、名張市の中央部に東から広がる丘陵の北端部で標高約220mの丘陵斜面に築かれた7基の円墳で構成される古墳群である。地籍上は名張市蔵持町芝出字小谷に位置する。今回発持調査を実施したのはこのうちの5基で、いずれも横穴式石室を内部主体とするものである。築造時期は6世紀後半から7世紀前半頃までに相ついで築造されたものと推定される。名古墳の概要は次表のとおりである。

（単位m）

号墳	墳形・周溝	墳丘規模	石室規模	遺物	遺物
1	円　有	直径9	全長7.20　玄室 長さ2.9 幅1.2	須恵器高杯	両袖式石室
2	円　有	直径8	全長不明　幅1.08	須恵器杯蓋 金環1コ	無袖式石室
3	円　有	直径14	全長7.20　玄室 長さ3.37 幅1.76	須恵器杯 高杯	両袖式石室
4	円　有	直径8	全長4.7　幅1m	須恵器杯	無袖式石室
5	不明　有	不明	不明	須恵器	不明

井手城屋敷遺跡（名張市井手字森ノ本４５０番地他）

事 業 名　地区再編農業構造改善事業

調査主体　名張市教育委員会（水口昌也）

調査期間　５９年６月１２日～８月３０日

調査面積　２,０００㎡

概　　要　名張盆地の南西部、宇陀川左岸の急傾斜地に位置し、標高２５０ｍを計る。下方の宇陀川河岸の水田面より比高５０ｍを計る、眺望のよい立地である。

調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期に至る方形の竪穴住居跡８棟と溝１条、鎌倉時代の方形土坑２ヶ所と柱穴を検出した。竪穴住居跡の一つは一辺６ｍを計る。遺物は、縄文時代晩期の格子文が彫刻された石刀の把部分と片刃石斧、弥生時代中期の石庖丁、竪穴住居に伴う弥生時代後期後半から古墳時代布留式前半期まで続く各種の弥生土器、古式土師器、鎌倉時代の瓦器、土師羽釜、小皿等が出土した。弥生土器、古式土師器のほとんどは、畿内的特徴をもつ土器であるが、一部、東海・伊勢湾沿岸地方、近江地方的特徴をもつ土器も出土しており、地域間の交流をうかがえる。

沢代遺跡（名張市赤目町丈六字東）

事 業 名　県道赤目滝線改良事業（バイパス）

調査主体　名張市遺跡調査会（水口昌也・門田了三）

調査期間　５９年１０月１１日～１２月２１日

調査面積　３,０００㎡

概　　要　沢代遺跡は、宇陀川右岸の沖積地に形成された微高地上に位置しており、現状は畑地となっている。周辺の畑地には、中世の瓦器片を中心とした遺物が散布しており、また周辺の水田畦畔や畑地割には、条里制区画によると推定される方形区画が確認される。調査の結果、古墳時代前期の大型溝２条、後期の竪穴住居跡１０棟、溝、土坑、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物２棟、溝３条、時期不明の溝、土坑等が検出されている。古墳時代前期には、遺跡地

周辺の耕地化を図るため宇陀川より取水したと思われる灌漑用の溝が掘削され後期にはこの溝も埋まり竪穴住居がつくられる。竪穴住居の出現は、この地域の一層の安定を示すものである。条里区画の坪境に推定される溝からは、瓦器や須恵器片が出土しており、名張郡条里の施行時期を推定する資料となる。

黒田古窯跡（名張市桔梗が丘南１番町）

事 業 名　一般国道３６８号線比奈知工区改築事業

調査主体　名張市遺跡調査会（水口昌也・門田了三）

調査期間　昭和６０年２月１８日～３月３１日

調査面積　６２０㎡

概　　要　名張盆地の北東部、蔵持地区を西流するシャクリ川の上流、黒田川沿の低丘陵地に位置する。北側の尾根頂上部には、昭和５１年度調査した弥生時代後期の集落跡蔵持黒田遺跡があり、そこより７世紀後半の須恵器杯身が出土しており関連があるものと考えられる。窯は黒田川によって大半が削りとられ崖面に断面が露出していた。調査の結果、窯は幅１.２ｍ、残存深０.５ｍ、奥行で１.７ｍだけ遺存していた。登り角度は３０度で端部中央に壷の底部と思われる円板が置かれていた。煙り出しに関係するものと思われる。天井部および壁上面は、内部に落ち込んでいた。壁体の粘土は、厚いところで１０㎝を計り内側５㎝は黄褐色に、外側は黒色に焼けている。その周囲約５㎝も赤褐色に酸化している。この窯は上端部しか遺存していなかったが、市内唯一の窯である。

観音寺遺跡 ※（名張市観音寺町）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（仁保晋作）

調査期間　昭和５９年６月２２日～　　月　　日

調査面積　６,０００㎡

概　　要　観音寺遺跡は、名張盆地を東西に走る宇陀川の支流、釜石川の左岸にそってのびる舌状丘陵上に位置する。弥生時代後期から室町時代にいたる複合

遺跡である。

弥生時代では、一辺１０ｍ余りの方形周溝墓一基、竪穴式住居３棟が検出され、いずれの遺構も多量の後期に属する弥生式土器を伴なっている。奈良時代では、ほぼ南北に棟をそろえた大形の掘り方をもつ掘立柱建物が７棟検出され多くの須恵器・土師器などに混じって円面硯が出土していることから、一般集落とは趣を異にしている。室町時代の遺構としては、３方を巾２.５ｍ余りの堀で区画されたいわゆる中世城館跡が検出されており、この郭を中心として、堀の内・外であわせて１１棟の掘立柱建物が認められた。この時期に属する遺物は、量的にすくないが、擂鉢、羽釜、鍋などの日常雑器が主である。

その他、鎌倉時代後期の瓦器を一括して出土した巾４.０ｍの大溝、室町時代掘立柱建物を囲む石列など多くの遺構を検出した。

Ⅳ　調査結果の公開

1. 三重県埋蔵文化財展

三重県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘の成果を、一般に普及する目的で開催している。昭和５６年度松阪・５７年度四日市・５８年度熊野市において開催し、本年度は第４回を迎えた。

本年度は、「掘り出された三重の城と館」をテーマとした。近年件数が増え、しだいに中世城館の様相が明かになってきている。山田城・丹生川上城・野呂氏館跡、風呂谷館、正法寺山荘等の出土遺物約２００点を中心に、城館の施設・中世の生活についての展示を行った。展示期間中にスライド上映を行い、展示の補足をした。北勢町コーナーも併設されて地元の埋蔵文化財が一般公開された。入場者総数は、１,３８４名であった。

（三重県埋蔵文化財展開催要項）

1. 趣旨　三重県教育委員会が発掘調査した遺跡から出土した遺物を中心に、200余を公開展示することにより、埋蔵文化財保護思想の普及・高揚をはかる。
2. 主催　三重県教育委員会
3. 協賛　北勢教育事務所管内各市町村教育委員会
4. 期間　昭和59年７月28日(土)～８月５日(日)　9：30～16：30
5. 場所　北勢町社会福祉センター（北勢町阿下喜）
6. 展示遺物

時代	展示品	出土遺跡	数量	保管者等
縄	縄文土器	山田遺跡（東員町）	1	町教委
文		東庄内遺跡（鈴鹿市）	2	県教委
弥	弥生土器	納所遺跡（津市）	9	〃
		起A遺跡（鈴鹿市）	1	〃
生	炭化米	〃　〃		〃
古	土師器	大塚古墳群（安濃町）	5	〃
	須恵器	〃　〃	19	〃
墳	埴輪	中ノ庄遺跡（三雲村）	3	〃
奈	土師器	天王平遺跡（多度町）	1	〃
		六谷遺跡（菰野町）	1	〃
良	須恵器	〃　〃	2	〃
		栗ノ木遺跡（東員町）	1	〃

時代	展示品	出土遺跡	数量	保管者名
平	灰釉陶器	七和古窯跡（桑名市）	3	県教委
安	緑釉陶器	大木ノ輪遺跡（鈴鹿市）	1	〃
	白磁	野垣内遺跡（伊勢市）	1	〃
鎌倉	青磁	服部遺跡（松阪市）	2	〃
	土師器	殿畑遺跡（阿児町）	7	〃
	〃	大薮遺跡（伊勢市）	8	〃
	瓦器	西沖遺跡（大山田村）	7	〃
	山茶碗	宮間戸遺跡（津市）	8	〃
室	灰釉陶器	白瀬城跡（藤原町）	3	町教委
	瀬戸陶器	宇野城跡（員弁町）	1	〃
	瀬戸陶器	大安経塚（大安町）	6	県教委
	施釉陶器	風呂谷館跡（大山田村）	6	〃
	常滑大甕	野呂氏館跡（芸濃町）	3	町教委
	交趾三彩	山田城跡（東員町）	3	〃
	石臼	山添遺跡（松阪市）	2	県教委
町	硯	戸木城跡（久居市）	6	〃
	木製品	小判田遺跡（四日市市）	5	市教委
	鉄器	下郡遺跡（上野市）	3	県教委
	陶器	正法寺山荘跡（関町）	2	町教委

写真及び解説パネル　　山田城跡・田辺城跡等５０点

2. 三重県埋蔵文化財発掘調査報告会

県及び市町村教育委員会と各遺跡調査会が行った発掘調査結果を一般に理解していただく企画として、報告会を開催している。今回は、伊勢市において開催し地域の遺跡分布状況の説明を加えた。報告は、スライド上映を併用して行った。

さらに、報告遺跡の遺物展示コーナーを併設したところ好評であった。約 100 名の参加者があった。

（三重県埋蔵文化財発掘調査報告会開催要項）

1. 目　的

昭和５８年度中に実施した県下の遺跡発掘調査件数は、５０余に及ぶ。

これらは、県教育委員会主体のものと市町村教育委員会及び各遺跡調査会主体のものに分けられ、調査途中ないしはその終了後に現地説明会を開催し、理

蔵文化財への理解と認識を広めている。さらに、埋蔵文化財の理解と保護思想の普及をはかるため、５８年度の発掘調査の成果を一般公開し、県民の文化的要求にこたえるものである。

2. 第３回報告会内容

主催　三重県教育委員会

協賛　伊勢市教育委員会

日時　昭和59年８月25日(土)

午後２:00～5:00

場所　伊勢市観光文化会館４F

内容　(1)昭和58年度の調査概要

(2)伊勢市の埋蔵文化財紹介

(3)各遺跡報告

	遺跡名	所在地	調査主体	報告者・遺跡概要
1	・中ノ垣内遺跡	伊勢市佐八町	県 教育委員会	新田洋 鎌倉時代の大規模な集落跡
2	・六谷遺跡	菰野町小島	県 教育委員会	山下雅春 飛鳥・奈良時代の集落跡
3	・風呂谷館跡	大山田村富永	県 教育委員会	駒田利治 室町時代の居館跡
4	・斎宮跡	明和町斎宮	斎宮跡 調査事務所	倉田直純 ４９～５２次調査
5	・川北城跡	津市大里川北町	津市 教育委員会	菅室康光 古墳時代前期の集落跡と室町時代の城館跡
6	・草山遺跡	松阪市久保町字草山	松阪市 教育委員会	伊勢野久好 弥生時代と鎌倉時代の集落跡
7	・久米山古墳群	上野市守田町字南平尾	上野市 教育委員会	野原宏司 古墳時代の横穴式石室群

3. 発掘遺跡現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し、文化財保護について理解を深めていたゞくため、現地説明会を開催し、調査結果について報告を行っている。

遺跡名	所在地	主催者	開催日	参加人数
丹生川上城跡	員弁郡大安町丹生川上	県 教育委員会	59.10.27	１６０名
山城遺跡	亀山市川合町	〃	59.12.8	１２０名
谷山古墳	〃 井田川町	〃	59.8.26	１００名
古市遺跡	一志郡白山町古市	〃	59.6.30	８０名
片野遺跡	〃 一志町片野	〃	59.7.29 59.11.17	４０名 ８０名

遺跡名	所在地	主催者	開催日	参加人数
曲遺跡	松阪市曲町	県教育委員会	59.12.8	150名
ミゾコ遺跡	多気郡多気町四神田	〃	59.11.12	100名
山崎遺跡	〃 〃 牧	〃	60.3.21	40名
金剛坂遺跡	〃 明和町金剛坂	〃	59.11.18	120名
前山古墳	阿山郡大山田村富岡	〃	59.11.10	80名
観音寺遺跡	名張市中村	〃	59.10.6	110名
斎宮跡第53次	多気郡明和町斎宮	斎宮跡調査事務所	59.4.28	150名
〃 第54次	〃	〃	59.7.1	136名
〃 第56次	〃	〃	59.11.3	145名
〃 第57次	〃	〃	60.2.3	150名
赤堀城跡	四日市市城本町	市教育委員会	60.1.26	40名
鎌切古墳群	津市野田	〃	60.2.23	150名
川北城跡	津市川北	〃	59.7.29	170名
草山遺跡	松阪市久保町	〃	60.2.24 60.3.23	100名 190名
辻垣内瓦窯跡	一志郡嬉野町釜生田	町教育委員会	59.9.10～12	600名
隠岡遺跡	伊勢市倭町	市教育委員会	59.12.9	180名
谷遺跡	上野市上郡	〃	60.2.2	80名
小谷古墳	名張市	〃	59.8.12	120名
井手城屋敷遺跡	〃 井手	〃	〃	100名
沢代遺跡	〃 沢代	〃	59.12.9	100名
夏見廃寺	〃 夏見	〃	60.3.24	300名

4. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可

教育委員会が保管している県内各地から出土した遺物の展示会等への貸出し、写真撮影、掲載等については、一定の手続きのもとに応じている。

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
三重県総合教育センター	中学校社会科教育指導法講座 教材研究資料	納所遺跡出土遺物　スライド4枚	59. 4.20～ 59. 4.25	59. 4.19
三重郷土会	『郷土の歴史』写真掲載	納所遺跡出土｛土器2点 木製品1点　亀井遺跡出土　土器1点 一色山遺跡出土　縄文式土器14点（フイルム）		59. 6. 6
東員町立東員第二中学校	社会科教材	納所遺跡土器｛石器　14点 弥生式土器1点（フイルム）		59. 6. 7
志摩民俗資料館	夏期特別展「古代の志摩をたずねて」展示	納所遺跡出土　弥生式土器1点 大薮遺跡出土　弥生式土器1点 北堀池遺跡出土　土師器1点	59. 6. 7～ 59. 6.30	59. 6.29
四日市市教育委員会	「掘り出された中世の生活用具」展示	丹生川上城跡出土　刀子2点 大安経塚中世墓出土　四耳壷1点 多倉田遺跡出土　古銭 白樫遺跡出土　硯1点 戸木城跡出土　硯2点 同　こうがい1点 服部遺跡出土　青磁　1点 山添遺跡出土　硯1点 同　曲物1点 古里遺跡　硯1点 荘遺跡出土　古銭 高向遺跡出土　土師器鍋1点 野垣内遺跡出土　白磁　1点 中垣内遺跡出土　卸し皿1点 殿畑遺跡出土　土師器鍋1点 同　硯1点 木津氏館跡出土　櫛1点 下郡遺跡出土　天目茶椀1点 同　鋸1点 風呂谷館跡出土　擂鉢1点	59. 7.12～ 59. 9. 5	
大阪市立博物館	特別展「稲作2500年米と日本文化」展示	北堀池遺跡出土｛丸鍬2点　三又鍬1点　二又鍬2点 長柄鋤1点　鋤の柄1点　槌1点	59. 8.16～ 59.11.10	59. 8.10

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
愛知県立瀬戸陶磁資料館	特別展「近世城館跡出土の陶磁」展示及び写真撮影、図録掲載・実測図作成	竪杵1点 北堀池遺跡｛水田跡写真1枚 古墳前期集落跡写真1枚 丹生川上城跡出土　天目茶椀1点　皿5点　盤1点 山添遺跡出土　天目茶椀2点　天目茶椀片1点 瓶片3点　水注片1点　皿5点 平椀片1点　擂鉢片2点　皿片1点 青磁椀1点　青磁椀片2点 白磁皿片2点 高向A遺跡出土　皿3点　青磁椀片4点 神ノ木館跡出土　擂鉢片3点　天目茶椀片3点 皿片4点　鉢片1点　青磁椀片3点 福地城跡出土　擂鉢1点鬼桶片1点　壷片1点　鉢1点 天目茶椀1点　天目茶椀片2点　皿4点 皿片1点 下郡遺跡出土　天目茶椀片3点　皿1点　皿片9点 鉢2点　鉢片1点　青磁椀片2点	59. 8.20～ 59.11.24 59. 8.22～ 59.12. 5	59. 8.20 59. 8.22
中央公論美術出版	『寺院建築の研究』収録	「斎宮寮跡の文献的調査」(『三重県風土記の丘・史跡公園建設計画調査報告書』)転載		59. 8.29
皇学館大学考古学研究会	大学祭展示	荘遺跡出土　須恵器3点　鋳貨3点　土師器3点 石鏃1点　紡錘車1点　山茶椀1点 荘遺跡スライド12枚	59.10.30～ 59.11. 6	59.10.22
藤原町教育委員会	町文化祭展示	大薮遺跡出土　土師器2点 大木ノ輪遺跡出土　山茶椀2点 同　山皿2点 パネル18枚	59.10.30～ 59.11. 9	59.10.30
大安町教育委員会	町文化祭展示	丹生川上城跡出土　天目茶椀1点　灰釉皿1点　皿1点 山茶椀2点　古瀬戸三耳壷　1点 経塚出土　常滑不識甕1点　古瀬戸壷1点 古瀬戸四耳壷1点 丹生川上城跡発掘状況パネル3枚	59.10.30～ 59.11. 6	59.10.30

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
明和町郷土文化を守る会	町文化祭展示	金剛坂遺跡出土 { 弥生式土器6点 須恵器2点	59.11.1～ 59.11.5	59.11.1
青山町立高尾小学校	図工科教材	蛇亀橋遺跡出土　縄文時代　1点 北堀池遺跡出土　弥生時代壷1点	59.11.10～ 59.11.20	59.11.10
久居市教育委員会	「中世の陶磁器展」展示	大安町経塚中世墓出土蔵骨器17点 服部遺跡出土　青磁1点 平尾遺跡出土　青磁2点 東畑中世墓出土　土師器鍋2点	59.11.16～ 59.11.30	59.11.12
北勢町教育委員会	町農業祭文化祭展示	蛇亀橋遺跡出土　1点 納所遺跡　壷2点 茶臼山古墳出土　須恵器壷1点 カウジデン遺跡出土　土馬1点　円面硯1点 中ノ庄遺跡　埴輪馬1点 川原井瓦窯跡出土　浄瓶1点	59.11.13～ 59.11.20	59.11.13
竹中大工道具館	美術カレンダー表紙写真掲載	下郡遺跡出土　鋸写真		59.11.20
三重大学教育学部 原始古代史部会	大学祭展示	納所遺跡出土　高杯2点 北堀池遺跡出土　1点　赤目壇遺跡出土　2点	59.11.22～ 59.11.26	59.11.21
大安町教育委員会 町史編纂室	『大安町史』写真・図面掲載	中世墓地調査図 経塚古墓　平面図・断面図 同　壷　2点 同　写真3枚	59.11.26～ 59.12.26	59.11.26
至文堂	『日本の美術ー古代の陶磁』写真掲載	川原井遺跡出土　浄瓶写真1点		59.12.6
三重県農林水産部 耕地第二課	昭和60年度予算要求資料	服部遺跡出土　青磁椀1点 宮間戸遺跡出土　和鏡1点	60.1.28～ 60.1.30	60.1.25

付〔１〕　〔埋蔵文化財事務連絡〕

昭和５９年１１月３０日
記念物課埋蔵文化財担当

1. 発掘調査の費用負担について

a　従来から土木工事に伴う緊急発掘調査については、事業者に費用の負担を求め、事業者が個人であって専らその個人の用に供する住宅の建設に伴う場合等、費用の負担を求めることが困難なものについては、文化財保護部局の経費で実施することとしてきたところであるが、今後とも、その方針に従って処理されたい。

b　農業基盤整備事業に係る緊急発掘調査については、農林水産省との覚書（「文化財保護法の一部改正に関する覚書」昭和５０年５月２３日付　庁保管第１１１号）に基づき実施しているところであり、原則として、当該調査費用は農業基盤整備費のなかで負担を求め（５項適用）、農家負担分について文化財保護部局の経費で実施するのが適当である。

c　公立学校の建設に伴う発掘調査について建設部分の発掘調査費は学校建設の「付帯工事費」として、国の補助対象に含まれているので（「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」昭和３２年４月４日付　文施助第６２号）、その補助条件に該当する限り、学校建設部局で予算化するよう協議されたい。

d　なお、民間・公共事業を問わず、建設場所等を定めるなど遺跡の保存を目的とする範囲確認調査や遺構のあり方等の確認調査については、文化財保護部局の経費で実施するのが適当である。

2. 補助金申請について

a　補助事業者が同一で、補助事業の種別（発掘調査・遺跡詳細分布調査・重要遺跡確認緊急調査等）が同一である事業について極力、一事業に統合して申請されたい。この場合、事業名称は「○○遺跡ほか発掘調査」、「○○遺跡ほか遺跡詳細分布調査」等とすること。

b　申請書添付の設計書の支出内訳明細書については、別表を参照の上、必ず「主たる事業費」と「事務費」に項目を区分して記載されたい。特に旅費、需要費、役務費について注意すること。なお、複数の事業を統合して行う場合には、総括表及び各事業毎の支出内訳明細書を付けること。但し、同一開発に係る複数遺跡の調査で、支出内訳を明確に区分できない事業や、不特定の個人住宅等に係る事業は、この限りでない。

c　申請書の補助事業名称は、遺跡名をあてることが望ましいが、開発事業地内における調査や、遺跡を特定せず緊急的に対応しなければならない個人住宅等に係る調査の名称は「○○ほ場整備地区内遺跡発掘調査」、「町内遺跡発掘調査」等としても差し支えない。

d　申請書の補助事業名称は、文化庁が内示した名称を使用することとし、内示した名称を変更する必要のある場合は了解を求めること。

e　交付申請書には、次の書類を添付すること。

(1)　申請書の資産及び負債に関する書類

(2)　設計書

①　補助事業に係る文化財の概要（ｆ項を参照のこと。）

②　補助事業の内容（事業の原因、調査の目的・方法等を具体的に記すこと。）

(3)　設計図（位置図・配置図等）

(4)　補助事業に係る収支予算書

①　収入の部

②　支出の部

③　支出内訳明細書

(5)　工程表

(6)　現況写真

f　申請書添付の設計書には、文化財の概要として下記のことを明記されたい。

(1)　遺跡の名称（ルビをふること）

(2)　遺跡の内容（年代及び種類を明記し、簡単な説明を加えること）

(3)　遺跡の所在地（ルビをふること）

(4)　遺跡の全体規模（　　㎡、　　基等）

(5)　遺跡内における当面の開発面積

（　　㎡、　　基等）

(6)　遺跡内における当該年度の調査面積

（　　㎡、　　基等）

(7)　調査地の現況（水田、宅地、山林等）

なお、複数の事業を統合した場合には、各事業ごとに上記のことを記すこと。

g　特に農業基盤整備事業に係る調査については、事業が一体であっても、農政側と文化財側の負担を明確に区分し、農家負担分に見合う対象面積を設定し、一つの事業として完結させること。なお、農政側と文化財側の負担を支出項目別（例えば、共済費・旅費は文化財側負担、需要費・賃金は農政側負担）で分担することは好ましくない。

h　申請書には、直営か委託事業かに拘らず調査組織表（調査委員・調査担当者等の氏名及び職名等を明記したもの）を必ず添付すること。

3.　補助金執行について

a　補助事業は、「文化財保存事業及び文化財保存施設整備関係補助金交付要綱（昭和５４年５月１日）」や「埋蔵文化財発掘調査国庫補助事業の執行に係る留意事項（昭和５８年１１月１５日）」等に基づき適切に執行すること。

b　調査報告書の刊行については、次の点に留意すること。

(1)　原則として当該調査年度に刊行すること。

(2)　継続事業の場合は、文化庁と協議の上数か年の調査実施分をまとめて刊行することもできる。

(3)　当該調査年度に刊行することが困難である場合は、その翌年度に限り刊行することを認めることもあるので、事前に当庁と協議願いたい。

c　実績報告書に記入する実績額は、円単位

とすること。（千円単位の切上げ、切り捨てはしないこと。

d　発掘調査地を原状に埋戻す必要がある場合、砂利等の必要最少限の原材料については補助対象に計上しうるので、埋戻し作業に遺漏のないよう配慮されたい。

e　発掘調査中の安全対策には十分配慮されたい。

（別　表）　**支出内訳書の項目区分及び注意事項**

	目	目の部分	備	考
主たる事業費	共済費			○労災保険には必ず加入し、他で一括加入の場合は、その旨を明記のこと
	報償費	謝金 委員謝金	調査等を委嘱した者又は協力者等に対する謝金	○原稿執筆謝金は認めない
	賃金	調査員賃金 作業員賃金 遺物整理人賃金	作業員等日々雇用労務者に対する賃金	○時間外賃金は計上しないこと。
	旅費	費用弁償 普通旅費 特別旅費	調査に伴う旅費 職員（調査）旅費 部外者招へい旅費等	○文化庁職員の指導旅費は事務費の項に計上すること。 ○研修旅費は補助対象としない ○遠方から招へいする場合は、その必要理由を明記すること
	需用費	消耗品費 燃料費 印刷製本費 修繕費 光熱水費	発掘用具、文具、フィルム ガソリン、プロパンガス 調査報告書刊行、調査カード印刷 調査器具修繕	○食糧費は補助対象としない ○フィルムの購入数と現象数は一致するのが原則である ○報告書の部数は３００部を原則とするが、配布計画等を勘案の上、増刷を認めることがある ○調査期間内の使用分に限ること
	役務費	通信運搬費	輸送料	
	委託費	測量委託費 分析調査委託費 保存処理委託費	航空写真、実測委託料等 時代測定、分析委託 （応急的な措置に限る）	○測量委託は積算資料を添付すること ○積算資料を添付すること
	使用及び借損料	器材借上料	ポンプ、ダンプカー、ベルコン、ブルトーザー他 会場借上等、自動車雇上料	○事務所借上は積算資料を添付のこと
	工事請負費	請負料	調査事業の一部を請負で実施する場合の経費（埋戻し作業等）	○積算資料を添付すること。
	原材料費	資材費 木材費 骨材費	Ｐ．Ｅ．Ｇ、石膏等 貫板、杭等 砂利等（埋戻し用）	
	備品購入費		ベルコン等（特に認める場合のみ）	
	補償費	補償金	調査地の農作物、立木補償金	○当該地方公共団体の基準単価を用い補償範囲とその理由を明記すること
事務費	旅費	普通旅費 特別旅費	事務連絡旅費 指導監督旅費	○上京旅費は１回以内とし、特別の場合は了解を得ること。 ○大規模な調査、重要な調査等については、文化庁からの指導旅費を計上すること。
	需要費	消耗品費	事務用品等	
	役務費	通信運搬費		報告書送料は、補助対象としない

注１　上記の各経費については、員数・単価を必ず記入し、積算の根拠を明確にすること。
注２　財団法人等に委託して調査する場合、（目）は委託費とし、（目の細分）で費目を区分すること。

付〔２〕　〔三重県文化財調査員設置要綱〕

沿革　昭和52年５月１日施行
昭和53年５月１日改正
昭和59年11月１日改正

（目　的）

第１条　三重県内に所在する埋蔵文化財を中心とし、必要に応じてその他の有形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物（以下「文化財」という。）の保護の万全を図るため、三重県文化財調査員（以下「文化財調査員」という。）を設置する。

（任　務）

第２条　文化財調査員は、次に掲げる調査事項に従事する。

(1)　三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査

(2)　国、県営の各種土木建設事業における文化財の分布及び確認調査

(3)　埋蔵文化財発掘調査における調査協力

(4)　その他、文化財の保護に関し必要と認める調査

（定　数）

第３条　文化財調査員の定数は、６０人以内とする。

（任　用）

第４条　文化財調査員は、地方公務員法第３条第３項第３号の規定により任用する。

2.　文化財調査員は、大学において考古学、歴史学を専攻した者又は、それに準ずる専門的知識を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

3.　文化財調査員の任用期間は１年とし、再任することができる。

（勤務条件等）

第５条　文化財調査員の勤務条件、事務処理その他服務に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

（報酬の額）

第６条　文化財調査員の報酬の額は、特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和３６年条例第３号）第２条の別表の規定に基づき教育長が別に定める。

（費用弁償）

第７条　文化財調査員の費用弁償の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和３２年条例第46号）に規定する行政職４等級の職務にある者に支給される旅費の額に相当する額とする。

（公務災害補償）

第８条　文化財調査員にかかる公務災害補償は議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例（昭和４２年条例第４３号）の定めるところによる。

（補　則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、文化財調査員に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

附　則

1.　この要綱は、昭和５９年１１月１日から施行する。

付〔３〕　〔昭和５９年度三重県文化財調査員一覧表〕

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
桑名・員弁・三重・四日市・鈴鹿・亀山	伊東春夫	自営		
	松本覚	東員第二中		
	片岡雅章	桑名高		
	森下明	常磐小		
	大場範久	石薬師高		
	三浦儀直	若松小		
	石井剛	※八風中		
	安川富春	中部中		
	山田芳昭	城南小		
	桐生定己	常磐中		
津・安芸・一志・久居	河合良成	南郊中		
	浅生悦生	一身田中		
	下井彰	東観中		
	本堂弘之	高宮小		
	津村善博	久居中		
	宮崎洋史	北畠神社		
	小林和彦	安濃小		
松阪・多気・飯南・飯高	世古且守	松阪第四小		
	奥義次	宇治山田高		
	奥谷義一	※久保中		
	福田昭	多気中		
	岡本好雅	山室山小		
	河合明	松阪工高		
	三井博之	※宮川中		
	鈴木逸郎	多気中		
伊勢・鳥羽・志摩・度会	中西健	小俣中		
	山崎富三郎	※早修小		
	村上喜雄	安楽島小		
	御村精治	小俣中		

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
伊勢・度会・鳥羽・志摩	川添昭博	東海中		
	竹内正弘	間崎小		
	中世古祥道	自営		
	伊藤保	自営		
	大西素行	外城田小		
	東浩成	志摩高		
上野・名張・阿山・名賀	森川桜男	自営		
	松山謙治	※ 鞆田小		
	岡本武和	柘植小		
	奥西勲	比奈知小		
	松鹿昭二	名張高		
	寺岡光三	会社員		
	福井健二	上野本町通郵便局		
	竹内英雄	桔梗が丘中		
	中山暁	崇広中		
	谷戸実	長瀬小		
北牟婁・尾鷲	伊藤良	団体役員		
	湊章治	※ 長島高		
南牟婁・熊野	嶋正央	自営		
	田中安弘	遊木小		
	古部均	井田小		

（備　考）

文化財調査員数　５０　名

北勢	１０名	上野	１０名
中勢	7	尾鷲	2
松阪	8	熊野	3
南勢志摩	１０		

勤務先欄※印は、教頭職

本人が勤務地市町村内に住んでいない場合は、本人の居住地を（　）内に示す。

付〔４〕　〔昭和５９年度三重県文化財パトロール実施要項〕

1. 趣　旨

県下における指定文化財（国・県）及び埋蔵文化財包蔵地（以下文化財という。）を巡視し常時文化財の管理・保存状況を把握し、適切な処置を講じて、文化財保護の万全を期する。

2. 活動内容

(1) 文化財管理、保存状況把握のための巡視

(2) 所有者等に対する文化財の保護管理指導

(3) 巡視、保護管理指導についての結果報告

(4) 文化財保護思想についての普及活動

(5) その他文化財の保護保存に関すること。

3. 期　間

昭和59年５月１日～昭和60年３月31日

4. 事業の実施について

(1) 事業は、各教育事務所が執行するものとし、各教育事務所長は実施計画書(様式１)を２期にわけて、三重県教育委員会文化課長に提出する。

(2) 文化財パトロールは、三重県教育委員会が任命した三重県文化財調査員が、前項実施計画書に基づき、実施する。

(3) 三重県文化財調査員は、文化財パトロール実施報告書（様式２）を毎月末までに各教育事務所長に提出し、各教育事務所長はとりまとめて翌月１０日までに文化課長に提出する※なお、緊急事態が発生した場合は、電話その他の方法により、すみやかに関係教育事務所に報告する。

※（その写しを関係市町村教育委員会へも送付）

(4) 各教育事務所長は、緊急事態の状況に応じて、文化課長及び関係市町村教育委員会に連絡する。

(5) 文化課長は、前項の状況により、早急に文化財パトロールカーを出動させ、文化財の保護対策を講じる。

(6) 事業の執行にかかる経費は、２期にわけて予算を令達する。各教育事務所長は、全事業終了後、すみやかに実績報告書（様式３）を文化課長に提出する。

（昭和60年４月２日までに）

(7) その他必要な事項は、そのつど文化課長が指示する。

〈様式1 ……B5判〉

文化財パトロール
実施計画書

昭和　年　月　日
（　　～　　）
昭和　年　月　日

月　日	調査員名	パトロール地区	内　容	備　考

〈様式2 ……B5判〉

文化財パトロール実施報告書

経　由	昭和　年　月　日 教育事務所　所長印		
文化財 パトロール地区 調査年月日 調査印			
文化財の名称		所在地	調査事項
報告事項			※裏面に、問題箇所、見取図、写真等記入のこと。
備　考			

〈様式３……Ｂ５判〉

昭和　　年度　文化財パトロール事業実績報告

昭和　　年　　月　　日付け第　　号で事業施行の通知のあった文化財パトロールの実績について、下記の通り報告します。

記

1. 文化財パトロールの実績

月　　日	調　査　員	パトロール地区	備　　考

2. 支　出　証　明　書

項　　目	令　達　額	支　出　額	内　　訳
			※　旅費については、行き先、回数を明記すること。

付〔５〕　〔昭和５９年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項〕

1. 目　　的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得につとめようとする者を、県外の埋蔵文化財関係研究機関に派遣し研修を受けさせるとともに、県内においても現地研修し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主　　催

三重県教育委員会

3. 期　　間

昭和59年４月１日から昭和60年３月31日まで

県外研修　　３カ月

県内研修　　９カ月

4. 場　　所

県外　奈良市佐紀町奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター他

県内　緊急発掘調査現場

5. 人　　員

若干名

6. 参加資格

県内の小中高校の教職員のうちで、考古学歴史学に造けいが深く、発掘調査の経験を有する者

7. 研修内容

(1) 講　　義

総論　○文化財の保護

各論　○文化財保護法

○史跡、埋蔵文化財保護の現状

○発掘調査方法

調査計画、　墓、集落、生産所窯、宮殿官衙寺院跡の調査

○遺物調査方法

実測原理、土器、土製品、石器木製品、瓦の観察と整理、人骨植物遺体の調査

○関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

○報告書作成方法

(2) 実習　○発掘技術実習、測量実習、遺跡実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習

8. 講　　師

奈良国立文化財研究所技官、県係員他

9. そ の 他

(1) 研修参加者の旅費は、県外県内とも県の規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し臨時教員が補充される。

(3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

付〔6〕　埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表

〈法57条の2による届出〉（13件）

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	届出者	受付年月日
小谷古墳群	名張市蔵持町芝出字小谷375番地他	都市計画道路	約 2,000	名張市中央東土地区画整理組合理事長 中出幸郎	59. 5.21
大井田城跡	員弁郡大安町大井田字幸次郎ケ谷	個人の住宅建設の為の宅地造成	1,300	個人	59. 6. 8
平田古墳群	安芸郡安濃町大字妙法寺字木羽佐間丸岡	住宅地開発事業	71,023.3	菱水産業株式会社 代表取締役 森島 実	59. 6.20
北野遺跡	多気郡明和町大字斎宮字大頭 918−2 他13筆	宅地造成	7,337.39	株式会社タカフジ 代表取締役 市川昇来	59. 6.20
北切C遺跡	阿山郡大山田村大字富永字北切 239−1 他12筆	工場建設に伴う宅地開発事業	9,383.75	阪口伸線所 阪口忠生	59. 6.20
中村4号墳	名張市中村字高尾778番地	宅地造成	265	新東昭名張開発株式会社代表取締役支店長 村上幸雄	59. 7.14
明豆遺跡 土地山古墳	度会郡玉城町宮古南広1696番地他	団体営圃場整備	121,000	宮古土地改良区理事長 村木城士	59. 7.21
東遺跡	伊勢市西豊浜町字東5407番	店舗駐車場建設	1,996.36	清水産業株式会社 代表取締役 清水利一	59.11
丈間谷遺跡	名張市蔵持町原出字丈間谷171番地	団体営圃場整備事業	400	蔵持土地改良区理事長 橋本勇夫	59.10. 1
鎌切2号墳他3基 稲場1号墳他2基 おこし古墳	津市大字野田字鎌切805番地他288筆	宅地造成	297,934	日本道路株式会社 名古屋支店長 田中昭三 大和開発株式会社 代表取締役 中村聡	59.10. 1
日原遺跡	亀山市布気町字日原1614−1 他7筆	ホテル（ロッジ）建設	6,270.24	鈴鹿都市開発株式会社 代表取締役 川村光秋	59.10.22
西ノ山古墳	四日市市山城町字西ノ山140−3	道路造成	1,923	有限会社 富栄商事	59.12.20
カゴ山古墳	多気郡明和町大字上村字カゴ山615	土採取	1,496	多賀建材 多賀 文夫	60. 4. 1

〈法57条の3による通知〉（30件）

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	届出者	受付年月日
赤堀城跡	四日市市城西ノ城東町、芝田一丁目 鵜の森二丁目、中川原一丁目、赤堀二丁目	都市計画道路改良	10,000	四日市市長 加藤寛嗣	59. 4.13
隠岡遺跡	伊勢市倭町字隠岡19番の1 他一筆	公営住宅造成	4,000	伊勢市長 加藤良六	59. 4.18
高山A遺跡	上野市蓮池青ノ代238他	県営圃場整備事業	60,000	三重県知事 田川亮三	59. 4.23
曲A・B遺跡	松阪市曲町出口679番地他	〃	115,000	〃	59. 6. 1
金剛坂遺跡	多気郡明和町大字金剛坂字坂垣内 840−7他	〃	80,000	〃	〃
観音寺遺跡	名張市中村1303他	〃	35,080	〃	〃
古市D・E遺跡	一志郡白山町大字古市字中切120−1他・前川原163〜番地	〃	113,980	〃	〃
井手遺跡	名張市井手字森之本450番地	集団農区総合整備事業	14,000	名張市長 永岡芝之	〃
竹ノ下遺跡	上野市森寺字竹ノ下地内	矢田川河川改修	3,000	三重県知事 田川亮三	59. 6.22
片野遺跡	一志郡一志町片野字内山 484−1〜554−4	地方改善施設整備事業による道路新設	1,172.5	一志町長 井田憲二	59. 6.26
深野遺跡	飯南郡飯高町大字森71他	畜産経営環境整備事業	38,000	三重県知事 田川亮三	59. 6.29
粥見遺跡	飯南郡飯南町大字粥見5360他	〃	100,000	〃	〃
山ノ花遺跡	鈴鹿市上田町字飛鳥塚1341	三角点標識建設	4	国土地理院長 田島稔	〃
岸岡山古墳	鈴鹿市岸岡町北山越2923	〃	〃	〃	〃
中島一号墳	阿山郡大山田村大字富岡字前山 63−5 63−3 72	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	約 3,000	三重県知事 田川亮三	59. 7.27
発シA遺跡	多気郡明和町有爾中発シ地内	用水路改修	4,450	中勢用水農業水利事業所長 前川和良	59. 7.27

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
城山城跡	志摩郡磯部町迫間字長岡	地区改良事業	9,324.94	磯部町長 南工	59. 9.11
ミゾコ遺跡	多気郡多気町神田字ミゾコ四海	道路特殊改良事業	1,385	三重県知事 田川亮三	59. 9.25
谷遺跡	上野市上郡字谷300番地	ほ場整備事業	226,000	上野市長 今中原夫	59.10. 1
赤坂遺跡 早登遺跡	多気郡明和町大字大淀字上山 1318−1他98筆	一般県道改良事業	5,220	三重県知事 田川亮三	59.10. 2
沢ノ代遺跡	名張市赤目町丈六字福島458他	県道改良事業	4771.9	〃	〃
渋見遺跡	津市渋見町 字丸岡634−2 字小谷699−7	都市計画道路盛土材としての土取り	722	津市長 岡村初博	59.10.22
砂谷遺跡	度会郡玉城町坂本408−8〜10他	道路改良事業	1,150	三重県知事 田川亮三	59.10.30
下名倉遺跡	一志郡一志町大字井関地内	団体営圃場整備事業	248,000	井関土地改良区理事長 谷川清	59.12.24
田曽城跡	度会郡南勢町田曽浦字シウズ4384−3	道路改良	378,490	三重県知事 田川亮三	60. 3. 8
段郷田遺跡	鈴鹿市長法寺町字帰寅1002他	道路特殊改良第1種	4,073.3	〃	〃
蛇谷 野田口古墳群他	鈴鹿市御薗町及徳田町地内	工業団地造成	約431,000	鈴鹿市土地開発公社理事長 野村仲三郎	60. 3. 9
黒田古窯跡	名張市桔梗ケ丘南1−3−331	国道368号道路改築	621.6	水資源開発公団比奈地ダム建設所長 岩田逸郎	〃
夜掘遺跡	一志郡嬉野町大字下之庄字川原他	中村川改修事業	1,180	建設省三重工事事務所長	60. 3.22
西A遺跡	名張市瀬古口字西	名張川改修工事	750	建設省近畿地方建設局木津川上流工事事務所 斎藤博	〃

〈法57条の1による届出〉(8件)

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	届出者	受付年月日
小谷古墳群	名張市蔵持町芝出字小谷375番地他	都市計画道路	2,000	名張市教育長 福森毅	59. 5.22
平田AB古墳群	安芸郡安濃町大字妙法寺字木羽佐間・丸岡	宅地団地造成	71,023.3	安芸郡安濃町遺跡調査会理事長 浅尾峯一	59. 6.27
中村4号墳	名張市中村高尾778番地	宅地造成	265	名張市教育長 福森毅	59. 7.21
文間谷遺跡	名張市蔵持町原出字文間谷171	団体営圃場整備事業	400	〃	59.10. 1
西ノ山古墳	四日市市山城町字西ノ山140−3	道路整備	200	四日市西ノ山古墳発掘調査会長 服部貞蔵	60. 3. 9
沢ノ代遺跡	名張市赤目町丈六425他	道路改良工事	3,700	名張市教育長 福森毅	〃
蛇谷 野田口古墳群他	鈴鹿市御薗町及徳田町地内	工業団地造成	110	鈴鹿市教育長 神尾博	〃
黒田古窯跡	名張市桔梗ケ丘南1−3−331	道路改築	300	名張市教育長 福森毅	〃

〈法98条の2による通知〉

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
草山遺跡	松阪市久保町字草山	団地造成	4,600	松阪市教委教育長 三井貞司	59. 4. 7
隠岡遺跡	伊勢市倭町隠岡19番地の1他1筆	市営住宅建設・宅地造成	4,000	伊勢市教委教育長 永田司郎	59. 5. 2
高山A遺跡	上野市蓮池青ノ代238他	県営圃場整備事業	1,680	三重県教育委員会教育長 横田猛雄	59. 5.12
古市遺跡	一志郡白山町古市	〃	2,000	〃	59. 5.25
金剛坂遺跡	多気郡明和町金剛坂	〃	6,000	〃	〃
新田古墳群	鳥羽市答志町2220・2289	学校建設	48	鳥羽市教委教育長 西村文彦	59. 9.11
大井浜遺跡	志摩郡大王町名田字大井田 129−1及地先	海水浸食	〃	大王町教委教育長 竹内源	〃
ミゾコ遺跡	多気郡多気町四神田字ミゾコ	県道改良工事	1,600	県教委教育長 横田猛雄	〃
赤堀城跡	四日市市城東町838−1.2.258−1.3	都市計画道路改良工事	1,100	四日市市教委教育長 館増男	〃
城山城址	志摩郡磯部町迫間字長岡	地区改良事業	98	磯部町教委教育長 山下永昌	〃

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
谷遺跡	上野市上郡字谷300番地他	ほ場整備事業	1,600	上野市教委教育長 米沢 昇	59.10 1
発シC遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ993−3他	用水路改修	150	明和町教委 永野由太郎	〃
草山遺跡	松阪市下村町字草山714−1〜6他	宅地開発	3,500	松阪市教委教育長 三井 貞司	59.10.23
日原遺跡	亀山市布気町字日原1614〜1他	ホテル(ロッジ)建設	12	亀山市教委教育長 麻生 真	〃
三行城跡	安芸郡河芸町三行字住持1098他	道路改良事業	1,600	県教委教育長 横田 猛雄	〃
曲A・B遺跡	松阪市曲町出口679番地他	ほ場整備	3,500	〃	〃
渋見城跡	津市渋見町 丸岡634−2 小谷699−7	都市計画道路	128	津市教委教育長 田岡 草生	59.11. 5
鎌切古墳群他	津市大字野田字鎌切805番地 他288筆	住宅団地造成		〃	59.11.29
谷遺跡	上野市上郡字谷300番地	ほ場整備事業	3,500	上野市教委教育長 米沢 昇	59.12.10
赤坂遺跡	多気郡明和町大淀地内	県道バイパス	272	明和町教委教育長 永野由太郎	59.12. 5
下名倉遺跡	一志郡一志町大字井関地内	ほ場整備事業	52	一志町教委教育長 小畑 長	60. 2. 7
夏見廃寺	名張市夏見2363他	史跡整備事業	800	名張市遺跡調査会長 福森 毅	60. 3. 9
北瀬戸遺跡	亀山市布気町古部野	国道一号線 亀山バイパス	1,000	県教委教育長 横田 猛雄	60. 2.22
東山遺跡	伊勢市東大淀町字東山22−1他	砂利採集	400	伊勢市教委教育長 永田 司郎	
片野遺跡	一志郡一志町片野	道路建設	4,430	県教委教育長 横田 猛雄	59. 6. 1
竹ノ下遺跡	上野市森寺字竹ノ下	河川改修	3,000	〃	〃
井手遺跡	名張市井手字森之本450番地	農業基盤整備事業	2,000	名張市遺跡調査会長 福森 毅	〃
大井田城遺跡	員弁郡大安町大井田字幸次郎ケ谷 2029	個人住宅宅地造成	1,300	大安町教委教育長 川島 洋五	59. 6. 8
北切C遺跡	阿山郡大山田村大字富永字北切 239−1他	工場用地造成	144	大山田村教委教育長 岡田 英夫	〃
ヒロサキ遺跡	度会郡南勢町船越字花川1915番地	町誌編纂	181	南勢町教委教育長 林 泰広	59. 6.20
北野遺跡	多気郡明和町大字斎宮字大頭918−2	宅地造成	304	明和町教委教育長 永野由太郎	〃
釜生田 辻垣内瓦窯跡	一志郡嬉野町大字釜生田字辻垣内 598−1 598−6	自然崩壊	500	嬉野町教委教育長 寺田信次朗	〃
片野遺跡	一志郡一志町片野字内山 484−1〜554−1	町道建設	1,172.5	一志町教委教育長 徳田 洋	59. 6.22
山添2号墳	松阪市山添町上山	防災のための土取り	100	松阪市教委教育長 三井 貞司	〃
宮山古墳	度会郡南勢町礫浦161−1	町誌編纂	(6,076 6.6)	南勢町教委教育長 林 泰広	〃
山城遺跡	亀山市川合町山城	一般国道1号線 亀山バイパス	1,500	県教委教育長 横田 猛雄	59. 6.26
谷山古墳	亀山市井田川町谷山	〃	100	〃	〃
観音寺遺跡	名張市中村字観音寺	県営ほ場整備事業	10,000	〃	〃
北切C遺跡	阿山郡大山田村大字富永字北切 239−1他	工場造成	3,800	大山田村教委教育長 岡田 英郎	59. 7.14
山ノ花遺跡	鈴鹿市上田町字飛鳥塚1341	三角点標識建設	4	鈴鹿市教委教育長 神尾 博	59. 7.21
岸岡山21号墳	鈴鹿市岸岡町字北山越2−33	〃	〃	〃	〃
明豆遺跡 上地山古墳	度会郡玉城町宮古上地山1787番地3 〃 1815番地1	ほ場整備事業	364	玉城町教委教育長 岩崎 澄雄	〃
発シA遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ993−3他	用水路改修	36	明和町教委教育長 永野由太郎	59. 8. 4
前山古墳	阿山郡大山田村大字富永字前山 63−5 63−3 72	農道取付	80	県教委教育長 横田 猛雄	〃
東遺跡	伊勢市西豊浜町字東5407	店舗用造成	100	伊勢市教委教育長 永田 司郎	59. 9.11

付〔7〕　三重県埋蔵文化財認定通知物件

物件名	認定日	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	保管場所
弥生土器・須恵器・土師器・山茶椀など 20箱	59.11.28	四日市市小古曽町字五百山2993ほか	58.12.22	館　増男	辻　とし子	四日市市教委
弥生土器片　1点	59.11.28	度会郡大内山村不動ノ沖	58.11.7	井上　矩男	井上　矩男	大内山村教委
弥生土器片　1点 瓦器　1点 その他土器片　1点	59.11.28	阿山郡大山田村大字富永字北切	59.4.29	岡田　英郎	阪口　忠生	大山田村教委
下駄・将棋の駒・櫛須恵器・土師器・磁器・こうがいなど 150箱	60.3.8	四日市市城東町 838−1ほか	59.12.15	四日市市教委	四日市市	四日市市立郷土資料庫
灰釉蓋付蔵骨器 1点	60.3.15	桑名郡多度町大字小山字西谷通1264	59.5.31	山本　昭男	山本　昭男	多度町立郷土資料室
山茶椀・山皿・土師器高杯・壷　9箱	60.3.15	志摩郡大王町名田字大井田129−1	59.9.1	竹内　源　国		大王町中央公民館
瓦器・土師器・天目茶椀・陶器・銅製品（こうがい）・鉄製品（刀子、釘）・石製品（砥石、石臼）銅銭 24箱	60.3.15	阿山郡大山田村大字富永字北切 北切C遺跡	59.7.2 〜 59.8.31	岡田　英郎	阪口　忠生	大山田村教委

三重県教育委員会

文　化　課	津市広明町13　三重県庁内7階 TEL　0592−24−2986〜2988
埋蔵文化財整理所 （通称　文化課分室）	津市桜橋2丁目 TEL　0592−27−2456
斎宮跡調査事務所	多気郡明和町斎宮 TEL　05965−2−1732
埋蔵文化財上野整理所	上野市丸の内117 TEL　0595−24−0079
近畿自動車道松阪整理所	松阪市丹生寺町 TEL　0598−58−0283
国道1号亀山バイパス 亀山整理所	亀山市和田町字西野1278−9 TEL　05958−2−2581